



認知症グループホームにおける運営推進会議の  
実態調査・研究事業 報告書

2010年3月

一般社団法人 日本認知症グループホーム協会

独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」助成事業

## 目次

はじめに.....	1
第1章 調査研究事業実施概要.....	5
1. 背景と目的.....	7
2. 調査実施内容.....	8
3. 調査研究体制.....	10
第2章 アンケート調査結果.....	11
1. 実施概要.....	13
2. 調査結果要旨.....	14
3. 集計結果.....	16
4. 自由回答のまとめ.....	36
第3章 訪問調査結果.....	59
1. ヒアリング調査結果.....	61
(1) グループホームもえれのお家.....	61
(2) グループホーム泉湧く憩いの家.....	63
(3) 真田グループホーム.....	68
(4) 高齢者グループホーム横浜はつらつ.....	72
(5) グループホーム円頓寺北館.....	77
(6) グループホーム和らぎ・歓.....	82
(7) 鞆の浦さくらホーム.....	84
(8) グループホーム城下町.....	88
(9) グループホームゆうきの家.....	92
2. 訪問調査のまとめ.....	95
(1) 調査概要.....	95
(2) 訪問調査結果の特徴.....	95
(3) 訪問調査により新たに分かったこと.....	99
第4章 研究のまとめと提言.....	101
(1) 生活支援の質的な向上をめざして.....	103
(2) 地域との連携により認知症に対する正しい理解を進める.....	104
(3) 防災・防火対策に有効な「運営推進会議」の役割.....	104
(4) 「運営推進会議」の効果と長期的な展望に立った認知症高齢者の支援のあり方の検討.....	105
(5) 「運営推進会議」の定着のための課題.....	106
◇資料編.....	109
認知症グループホームにおける運営推進会議の実態に関する調査 -111	
公開委員会(札幌シンポジウム)配布資料(委員提出分) -123	
公開委員会(札幌シンポジウム)配布資料(厚生労働省提出分) -130	
認知症高齢者グループホームにおける防火安全体制等の点検について -140	
【事例】運営推進会議における防災関連の検討内容(グループホームふぁみりえ) -143	

## はじめに

人が人生を全うする限り、「老い」はすべての人に共通する課題であり、そのことを避けることはだれもできない。現在では、老いた時に自分の希望する地域や街で暮らし続けることは難しいが、住み慣れた地域で安心した暮らしを続けたいという思いは、だれもが持つ当たり前の感情である。

平成 18（2006）年より、認知症高齢者のグループホームが地域密着型サービスの一つに体系化され、2ヶ月に1回「運営推進会議」を開催することが義務化された。今年度の本研究では、「運営推進会議」の開催状況とその効果についてのアンケート調査と9か所のグループホームの訪問調査を行い、認知症グループホームにおける「運営推進会議」の開催についての課題を明確にするとともに、運営推進会議ガイドブックを発行して「運営推進会議」の開催と会議の定着を目指した。

アンケート調査では、全体の3割の事業所において、地域住民とグループホームとが一緒に防災・防火訓練を実施していると回答しており、訪問調査したグループホームでは、ほとんどの事業所が「運営推進会議」で防災・防火訓練について話し合っているという結果であった。

この「運営推進会議」の実施により、グループホームはスタッフや利用者、家族のみならず、地域関係者である町内会、自治会、民生委員、老人クラブ、市町村の職員、地域包括支援センター、ボランティア、消防署職員などが参加して、交流する場を持てるようになった。「運営推進会議」では、グループホームの活動内容の紹介や認知症の研修、地域関係者と防災訓練の準備、地域全体の高齢者の問題などたくさんのことが話され、この会議を開催することを通して、グループホームが「地域とつながる」ことが可能になった。そして、「運営推進会議」を通して、地域住民がグループホームの活動や認知症高齢者への理解を深めていくだけでなく、グループホームが地域に根付いて、グループホームで暮らす高齢者がまさに、馴染みの地域でその人らしい豊かな暮らしを営んでいくための「場（トポス）」になっていくことが求められている。

昨年度の本研究において、認知症高齢者のグループホームにおいて「運営推進会議」を開催することにより、次のいくつかの機能を果たすことになることが明確になった。その機能には、①情報提供機能、②教育研修機能、③地域連携・調整機能、④地域づくり、資源開発機能、⑤評価機能がある。特に、ここでは、③地域連携・

調整機能、④地域づくり、資源開発機能について取り上げる。それは、認知症高齢者だけでなく、だれでもが安心して暮らす地域（街）を創っていくことが究極の目標になっていくからである。

「地域づくり」のために「運営推進会議」を武器にして、グループホームから積極的に地域住民に対して情報を発信し、丁寧に説明し、日常的な交流を図っていく粘り強い努力が必要になってくる。「運営推進会議」によってグループホームの周囲の地域住民や町内会、民生委員、老人クラブなどに加えて、行政担当職員や消防署員、駐在所の警察官が参加することにより、認知症グループホームと地域関連機関のネットワークが創られることになる。グループホームの利用者や家族が、その地域の住民として地域活動に参加でき、まさに開かれた施設として地域住民との交流を日常的に展開するためには、日常的な連携とネットワークが基礎になる。今までの研究で、先進的に活発に展開している地域では、老人クラブ活動との交流、学童保育との連携など地域全体のニーズを拾い上げてグループホームで連携して実践し、グループホームの利用者が地域のお年寄りの住宅に訪れて、お茶飲み友達として交流しているところもある。日常的な地域との交流が、災害時における協力・連携体制を創っていく土台である。

地域づくり、資源開発機能について考えると、地域との連携や調整が進み地域の事情に応じた高齢者支援の課題を話し合い、例えば、一人暮らしの高齢者の生活問題や対応について協議することも実現でき、認知症高齢者が安心して暮らすための地域のあり方を検討するなど、グループホームが「地域づくり」の拠点としての役割を果たすことが可能である。これからは、認知症高齢者の問題は、地域全体が考慮していく課題であり、すべての国民の課題でもある。そして、その地域に新しい社会資源としての、新しいグループホームの開設やホームヘルプサービスの提供、デイサービス、ショートステイなどの地域密着型のサービスの提供が必要になってくることもあるだろう。その時には「運営推進会議」で地域資源の開発について取り組むことを、市町村職員や地域住民とともに話し合われることになる。これらの地域連携や地域づくりの機能を果たしていく上で、認知症グループホームの地域での連携の拠点として存在することに大きな意味がある。

新たなネットワークは、利用者の変化や支援の進捗状況や地域の課題に応じて、臨機応変に対応できるものでなくてはならない。今まで述べたような地域調整・連

携機能と地域づくりの機能を果たしていくためには、相当の時間と準備が必要であることは言うまでもないが、結果を急がないでじっくり地域に根付いていく活動が望まれる。

認知症高齢者の地域生活の確立に向けた支援を実践するときに、私たちの関心の対象は認知症高齢者の表面的な行動や現象にあるのではなく、その人の人生の経験や人間関係などの歴史であり、本来持っている能力や周囲との人間関係を創る力や生きる力や意欲などの人間全体に向けなければならない。介護計画を立てることにおいても、個人だけを対象にするのではなく、家族関係、地域の人々とのつながりなど地域社会全体を対象にして考えなければならない。そして、地域社会をベースにして生活支援のサービスを創設することを求められる。その時には、新しい地域の状況を創っていくという希望と強い意志を持ち続ける必要がある。その希望や意志を失ってしまい、今ある状態に甘んじてしまうようであれば、認知症高齢者に対する支援は、生活者としてのニーズを抑圧していくことや馴れ合いの支援を続けることになってしまうだろう。

2010年3月17日

認知症グループホームにおける運営推進会議の実態調査・研究事業委員会

委員長 荒田 寛

龍谷大学 社会学部

# 第 1 章 調査研究事業実施概要

## 第1章 調査研究事業実施概要

### 1. 背景と目的

2006年の介護保険法改正において地域密着型サービスに位置付けられた認知症グループホームは、利用者、利用者家族、地域住民、市町村職員等をメンバーとする運営推進会議を2ヶ月に1回程度開催することが義務付けられた。ねらいは、地域に開かれた会議を通じて、事業運営の透明性の確保やサービスの質の向上、利用者受益、地域との円滑な相互関係等をより一層図りやすくするためである。

当協会では平成20年度より福祉医療機構助成事業として「認知症グループホームにおける運営推進会議の実態調査・研究事業」を実施しており、昨年度はアンケート調査及び訪問調査を基に報告書を作成したところである。本年度は、昨年度の調査結果を踏まえて、運営推進会議の「質の向上」「底上げ」を図りつつ、事業者、行政、地域住民に対して新たな指針・価値観を創造し、最終的には「高齢者観」「福祉文化」に寄与する運営推進会議のあり方について言及するものである。

過去に比べれば、要介護者が利用できる施設サービス、在宅サービスは確実に増えているものの、生活支援の側面や「その人らしさ」を尊重するケア、そして地域社会の中で支えていくための支援体制の構築に向けては、未だに多くの課題が残されている。本調査研究のベースには、「認知症は誰もがなりうるもの」を前提に、認知症になっても安らぎ、安心、喜びのある日々の暮らしと高齢者の尊厳を支えていくために、本人、家族、地域住人、介護サービス事業所、行政などの多資源が協働しながら互いが支え支えられる相互関係の中で、認知症高齢者の暮らしを考えていく必要があるという点である。そして、その相互関係を構築する上で、運営推進会議は地域とグループホームをつなぐ大きな役割を担うこととなる。そして、「生活の継続性」「そのひとらしさ」「尊厳の保持」「共にある新しい地域の創生」といった理念が、日々のかかわりの中で活かされるための実践例を紹介することにより今後の地域福祉実践についてのあり方を提言するものである。

<参考>

運営推進会議

【2006年3月14日厚生労働省令第34号「指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準】

(地域との連携等) \*第108条による準用規定

第85条 指定小規模多機能型居宅介護事業者は、指定小規模多機能型居宅介護の提供に当たっては、利用者、利用者の家族、地域住民の代表者、指定小規模多機能型居宅介護事業所が所在する市町村の職員又は当該指定小規模多機能型居宅介護事業所が所在する区域を管轄する法第115条の39第1項に規定する地域包括支援センターの職員、小規模多機能型居宅介護について知見を有する者等により構成される協議会(以下この項において「運営推進会議」という。)を設置し、おおむね2月に1回以上、運営推進会議に対し通いサービス及び宿泊サービスの提供回数等の活動状況を報告し、運営推進会議による評価を受けるとともに運営推進会議から必要な要望、助言等を聴く機会を設けなければならない。

2 指定小規模多機能型居宅介護事業者は、前項の報告、評価、要望、助言等についての記録を作成するとともに、当該記録を公表するものとする。

3 指定小規模多機能型居宅介護事業者は、その事業の運営に当たっては、地域住民又はその自発的な活動等との連携及び協力を行う等の地域との交流を図らなければならない。

4 指定小規模多機能型居宅介護事業者は、その事業の運営に当たっては、提供した指定小規模多機能型居宅介護に関する利用者からの苦情に関して、市町村等が派遣する者が相談及び援助を行う事業その他の市町村が実施する事業に協力するよう努めなければならない。

## 2. 調査実施内容

### (1) 調査研究委員会の開催

本研究会は、昨年度の調査研究事業の結果を踏まえ、運営推進会議を通してグループホーム事業の質の向上、底上げに寄与するために、グループホーム事業者、行政関係者、社会福祉に造詣が深くそれに関係する活動をされているなど各界の有識者による委員会を設置し、アンケート調査による実態把握、訪問調査、報告書並びにガイドブックの作成、シンポジウムの開催等について検討を行った。

1回目： 6月20日(土)

2回目： 8月8日(土)



- 3回目： 10月 4日(日)
- 4回目： 11月 1日(日)
- 5回目： 12月 22日(水)
- 6回目： 2月 9日(火)
- 7回目： 2月 28日(日)
- 8回目： 3月 17日(水)

## (2) 運営推進会議に関するアンケート調査の実施

### ① 調査対象

日本認知症グループホーム協会会員 GH 事業所 2,151 箇所

### ② 調査実施期間

2009年11月1日～12月7日

### ③ 回収

事業者調査 1,082 件 (回収率 50.3%)

### ④ 調査内容

- i グループホームの概要について
- ii 運営推進会議の開催状況について
- iii 運営推進会議の開催内容について
- iv 運営推進会議開催後の有効性（影響）について 等

## (3) 運営推進会議に関する訪問調査の実施

### ① 調査対象

日本全国認知症グループホーム協会会員事業者 9 箇所

札幌市（北海道）、文京区（東京都）、上田市（長野県）、横浜市（神奈川県）、  
名古屋市（愛知県）、倉敷市（岡山県）、福山市（広島県）、丸亀市（香川県）、  
玉名市（熊本県）

### ② 訪問調査実施期間

2009年10月31日～2010年3月22日

### ③ 調査内容

- i グループホームの概要について

- ii 運営推進会議の開催状況について
- iii 運営推進会議の開催内容について
- iv 運営推進会議開催後の有効性（影響）について 等

#### (4) 公開委員会（シンポジウム）の開催

グループホーム事業者、行政関係者、地域密着型サービス事業者など、意見交換等を行うため、委員との公開委員会（シンポジウム）を開催し運営推進会議のあり方に関する意見交換および検討を行った。

11月 1日（日） 札幌市（北海道）

### 3. 調査研究体制

#### <委員長>

荒田 寛 龍谷大学 社会学部地域福祉学科 教授

#### <委員>

池田 武俊 大牟田市 保健福祉部長寿社会推進課 課長

岩尾 貢 一般社団法人日本認知症グループホーム協会 副代表理事

内出 幸美 社会福祉法人典人会 理事・総所長

大谷るみ子 社会福祉法人東翔会 グループホームふぁみりえ ホーム長

高村 智子 社会福祉法人鶴寿会 サンライフたきの里 主任

平林 恵美 健康科学大学 健康科学部福祉心理学科 講師

水井 勇一 加賀市 市民部長寿課 企画専門員

山梨 恵子 株式会社 ニッセイ基礎研究所 生活研究部門 研究員

（敬称略、50音順）

#### <事務局>

橋詰 清 一般社団法人 日本認知症グループホーム協会

#### <実施主体>

一般社団法人 日本認知症グループホーム協会

## 第2章 アンケート調査結果

## 第2章 アンケート調査結果

### 1. 実施概要

(1) 調査名：認知症グループホームにおける運営推進会議の実態に関する調査結果

(2) 調査対象

日本認知症グループホーム協会会員事業所  
(回答者は、事業者の代表者 もしくは 管理者)

(3) 実施時期

2009年11月1日～2009年12月7日  
・調査時点は、2,009年10月1日現在の状況

(4) アンケート調査の内容・構成

- I グループホームの概要について
- II 運営推進会議の開催状況について
- III 運営推進会議の開催内容について
- IV 運営推進会議開催後の有効性（影響）について
- V その他

(5) 調査方法

郵送によるアンケート調査

(6) 発送数および回収数

発送数 2,151件  
回収数 1,082件（回収率 50.3%）

## 2. 調査結果要旨

### (1) 運営推進会議の準備段階

- ・ 運営推進会議の開催は、平日の午後に開催されている割合が高く、半数以上の事業所が「4人～8人」程度の規模で開催していることが分かる。また、会場は7割以上が事業所内で行っている。
- ・ 事業所からの参加者は、管理者や計画作成担当者、法人代表者等が『固定メンバー』として参加しているケースが多いが、介護職員の参加については、会議の内容に応じて『変動メンバー』となっていることが多い。
- ・ いっぽう、外部メンバーについては、ほとんどの事業所で家族が参加しており、その他では「民生委員」「地域包括支援センター職員」「町内会長」の参加が多くなっている。また、利用者自身が参加している割合も3割程度となっている。
- ・ 委員就任に関する要請については、「問題なく就任してもらえた」が9割を占めており、全般的にスムーズに引き受けてもらえている状況がみてとれる。
- ・ また、実際に会議を進行している司会者は、管理者の割合が7割を占め、職員が担っている事業所は比較的少ない。

### (2) 開催状況・内容

- ・ 2カ月に1度の開催頻度については様々な意見が聞かれる中、実際には75%程度の事業所がクリアできているとの結果が得られた。また、この頻度を保てない事業所の開催頻度を確認すると、「3～4ヶ月に1回」との事業所が大半を占めている。
- ・ 会議の議事内容をみると、いずれの事業所も「日ごろの活動報告」や「利用者の状況報告」「自己評価や外部評価の結果報告及び改善計画の提案」などが中心となっており、「防火・防災訓練の実施の検討」「地域行事への参加の検討」「地域との相互交流のあり方についての検討」なども比較的が多い。
- ・ 9割近くの事業所で外部評価結果に関する議題が取り上げられている反面、運営推進会議がその後のケアの改善に対するモニタリング機能を果たしている事業所は35%程度にとどまっている。評価制度と運営推進会議とを、質向上のための一体的な取り組みとして捉えている(実践している)事業所は

比較的に少ないことが分かる。

- また、運営推進会議の議事内容の公表方法については、「事業所の玄関等に設置し、閲覧できるようにしている」との回答が約5割で最も多いが、利用者家族に配布している割合は25%にとどまる。

### (3) 運営推進会議の効果

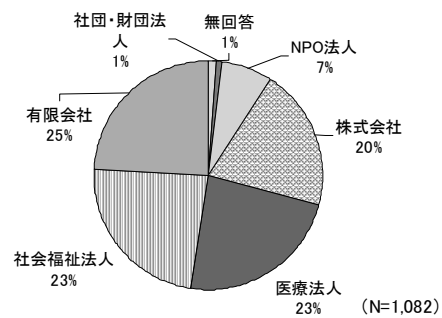
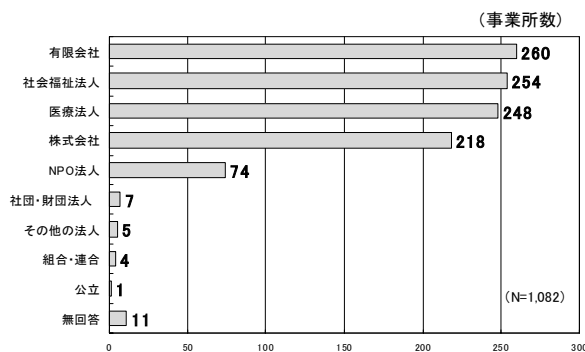
- 開催頻度や議事のテーマ不足、事務処理の煩雑さなど、運営推進会議の実施に伴う様々な問題提議がなされる中、この制度の効果性に関する評価は比較的に高い結果となった。運営推進会議の目的・意義・効果について、肯定的な意見を持つ事業所は、全体の7割を占める。
- いっぽうで、開催者側の立場で感じている会議の問題点や課題については、「大いにある」が15%、「まあある」が5割弱と、効果性を認めているものの会議の充実に向けた課題意識は依然として高くなっている。これは、各々の事業所が運営推進会議を活かそうと試行錯誤の状況にあることの裏返しとみてとることができる。
- 現状における運営推進会議の充実度別に、事業所運営やケアの質の改善への効果に関する意識を確認したところ、充実度が高いほど改善意識も高くなっている。また、会議の充実度が高いほど、2カ月に1度のかいさい頻度に関する負担感は少なくなっている。
- 運営推進会議を通じて、地域とのつながりや参加者との顔の見える関係をいかに作るかが、グループホームのケアの質向上に直接的な影響を及ぼすと考えられる。

### 3. 集計結果

## I 回答事業所の基本情報

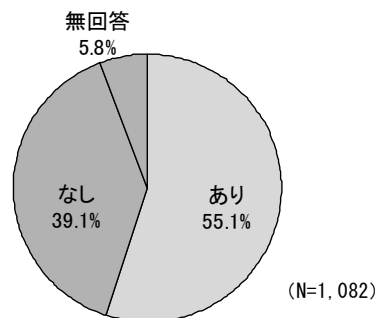
### 回答事業所の法人種別

- 主な回答事業所の運営経営主体は、「有限会社」が260法人と最も多く、「社会福祉法人」が254法人、「医療法人」が248法人、「株式会社」が218法人と続く。



### 本体施設の有無

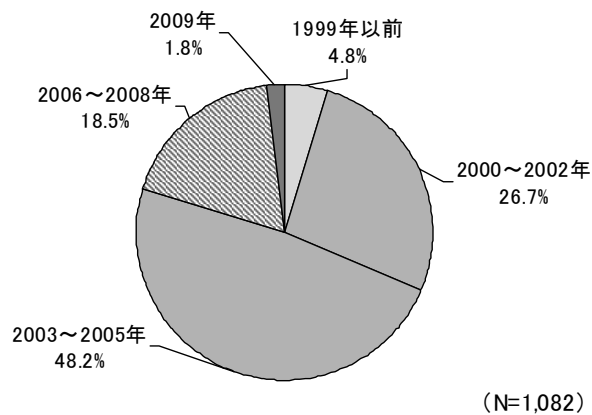
- 本体施設有無は、「あり」が55.1%、「なし」が39.1%となっている。
- 「あり」の場合、本体施設の種類の「特別養護老人ホーム」が140か所、次いで「介護老人保健施設」が113か所、「病院」が112か所となっている。



「あり」の場合	事業所数
1. 特別養護老人ホーム	140
2. 介護老人保健施設	113
3. 病院	112
4. その他	135

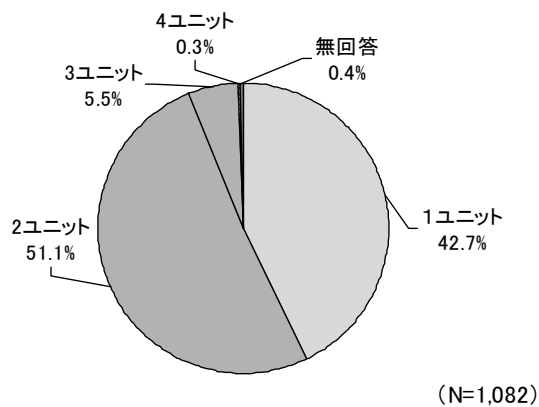
## 開設年

- 開設年で最も多いのは、2003～2005年が48.2%と半数弱を占めている。
- 2000～2002年は26.7%、2006～2008年が18.5%と続く。



## ユニット数

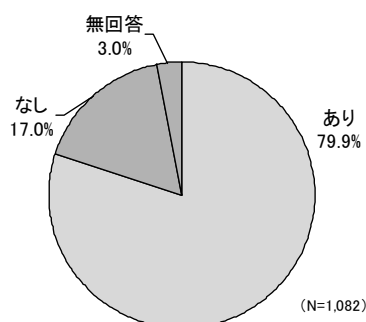
- ユニット数をみると、全体の51.1%を「2ユニット」が占め、「1ユニット」が42.7%、「3ユニット」が5.5%と続く。
- 「4ユニット」は0.3%であった。





## 保険事業以外活動 高齢者一般を対象とした事業

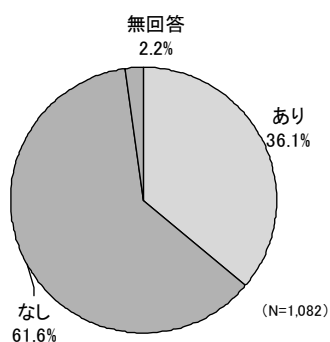
- 保険事業外活動において、一般高齢者を対象とした事業の有無を聞いたところ、「あり」は79.9%で約8割を占めている。
- 事業内容は、「相談窓口の設置」が104か所、「予防教室」が33か所、「茶話会」が21か所、「配食サービス」が18か所、「趣味の会」が13か所となっている。



「あり」の場合	事業所数
1. 予防教室	33
2. 趣味の会	13
3. 茶話会	21
4. 配食サービス	18
5. 相談窓口の設置	104
6. その他	42

## 保険事業以外活動 一般住民を対象にした事業・交流会等

- 一般住民を対象にした事業・交流会等の有無について、「なし」が61.6%、「あり」が36.1%である。
- 「あり」の場合の内容は、「町内会等への加入」が474か所、「相談窓口の設置」が129か所、「介護教室」が67か所、「商店の利用」が60か所と続く。

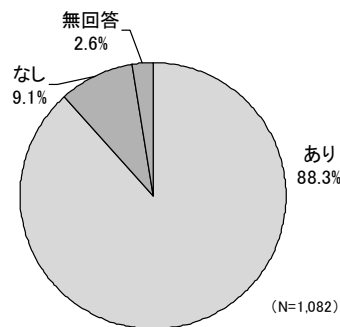


「あり」の場合	事業所数
1. 健康教室	26
2. 介護教室	67
3. 趣味の会	31
4. 茶話会	45
5. 飲食店の利用	49
6. 商店の利用	60
7. 生涯学習	10
8. 相談窓口の設置	129
9. 町内会等への加入	474
10. その他	121

## 保険事業以外活動

### 障害者・児童を対象とした事業・交流機会等

- 障害者・児童を対象とした事業・交流会等の機会の有無について、「あり」は88.3%で、9割弱が実施をしている。
- 「あり」と回答した具体的事業内容の「その他」は、「生きがいサロンやふれあいサロンでの交流」や「雇用機会の提供」などがあげられている。



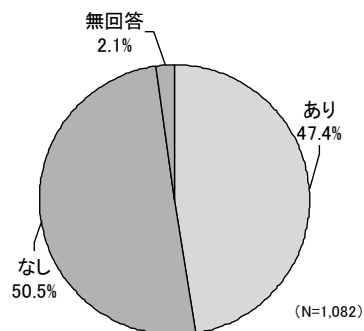
「あり」の場合	事業所数
1. 自立支援法によるサービス	22
2. その他	66

生きがいサロン・ふれあいサロン等
雇用機会の提供
若年認知症サポートセンター
障害者の喫茶店へ行く
就労支援事業所 等

## 保険事業以外活動

### 子供を対象とした事業

- 子供を対象とした事業は、「なし」が50.5%、「あり」が47.4%となっている。
- 「あり」の場合で最も多いのは「保育所・幼稚園」との交流で346か所である。

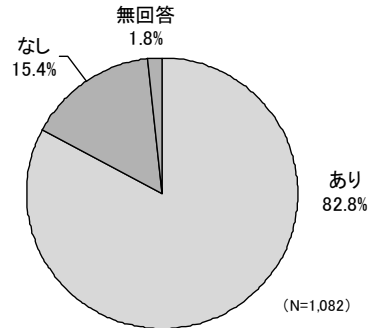


「あり」の場合	事業所数
1. 保育所・幼稚園	346
2. 学童保育	32
3. ファミリーサポートセンター	3
4. その他	232

## 保険事業以外活動

### 認知症サポーター養成講座の開催

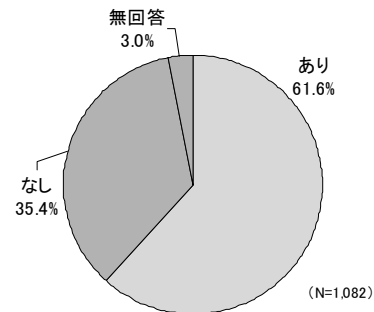
- 認知症サポーター養成講座を開催している事業所は82.8%である。



## 保険事業以外活動

### 家族会などの立ち上げ支援

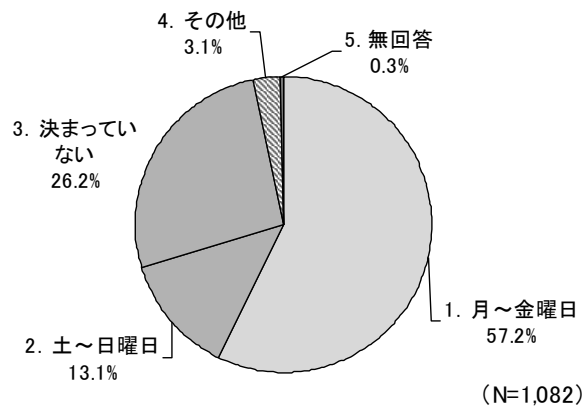
- 家族会などの立ち上げ支援を実施している事業所は61.6%で、「なし」は35.4%である。



## Ⅱ 運営推進会議の開催準備

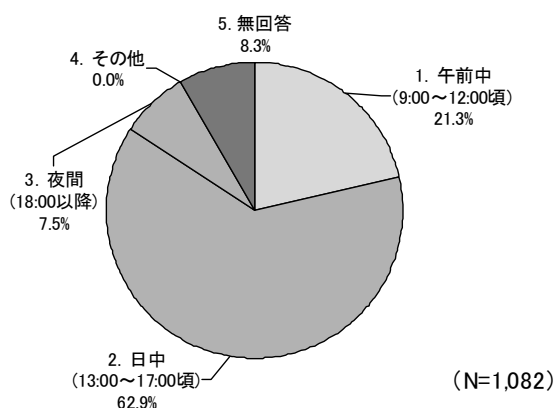
### 運営推進会議の開催日

- 運営推進会議の開催日は、「月～金曜日」が最も多く、57.2%を占める。
- その他では、「決まっていない」が26.2%と比較的に多く、柔軟に開催されている様子もみられる。



## 運営推進会議の開催時間帯

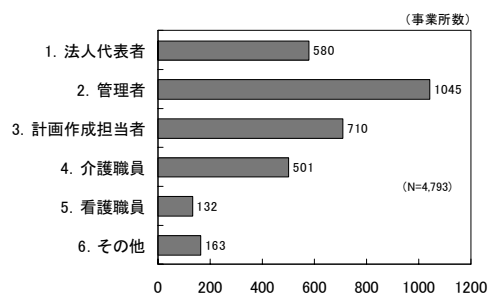
- 運営推進会議開催の時間帯は、「日中(13:00～17:00頃)」の開催が62.9%と最も多く、次いで、「午前中(9:00～12:00頃)」が21.3%、「夜間(18:00以降)」が7.5%となっている。



## 事業所内の参加メンバー

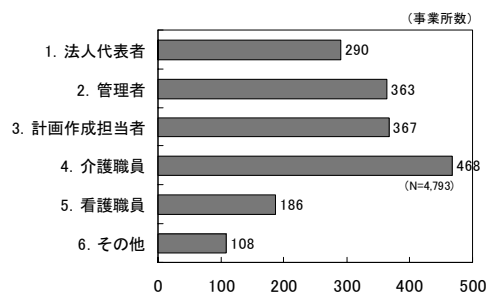
### <固定メンバー>

- 「管理者」が最も多く1045か所、「計画作成担当者」が710か所、「法人代表者」が580か所、「介護職員」が501か所と続く。管理職の参加が多くなっている。



### <変動メンバー(内容に応じて)>

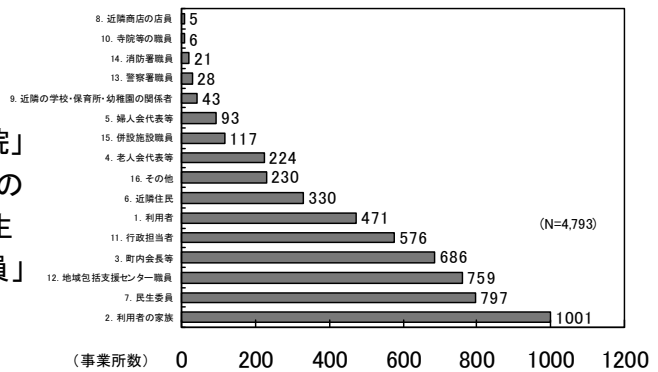
- 内容に応じて参加しているのは、「介護職員」が468か所と最も多い。次いで、固定メンバーで挙げられた「計画作成担当者」「管理者」「法人代表」が大差ない数で続いている。



# 外部の参加メンバー

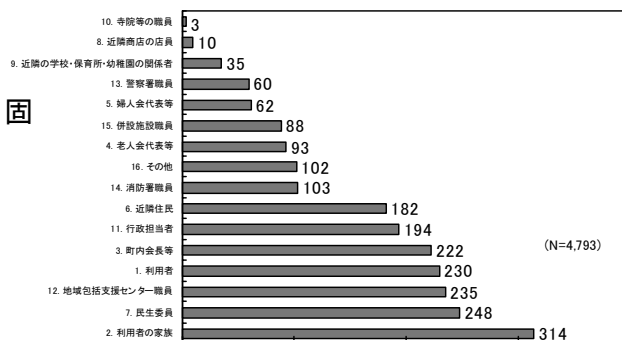
## <固定メンバー>

- 「学校・保育所・幼稚園」「警察」「消防」「寺院」「近隣商店員」の参加がみられる。最も多いのは「利用者の家族」の1001か所であり、「民生委員」797か所、「地域包括支援センター職員」759か所、「町内会長等」が576か所と続く。



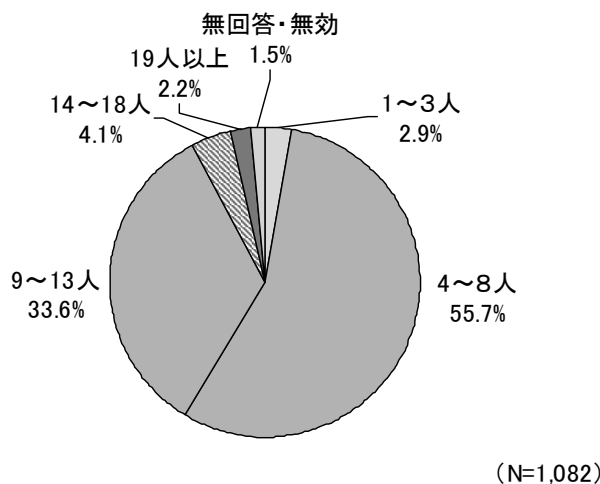
## <変動メンバー(内容に応じて)>

- 「消防」「警察」「近隣商店」からの参加が、固定メンバーと比較し多くなっている。



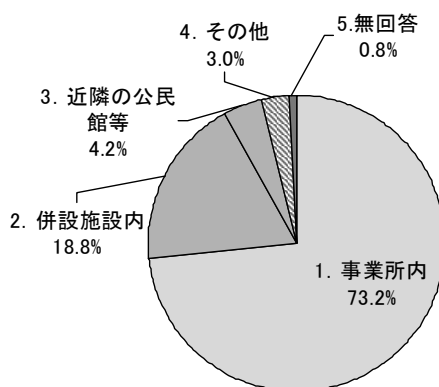
# 参加メンバーの人数(1回あたり平均)

- 1回当たりの参加メンバー平均人数は、「4～8人」が55.7%で最も多く、次いで「9～13人」が33.6%となっている。



## 開催場所

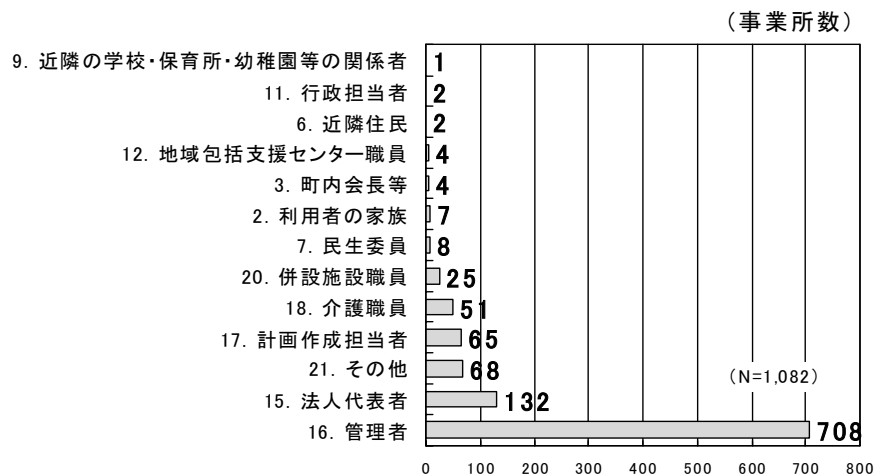
- 開催場所は、「事業所内」の開催が最も多く73.2%を占めている。次いで、「併設施設内」が18.8%、「近隣の公民館等」が4.2%となっている。



(N=1,082)

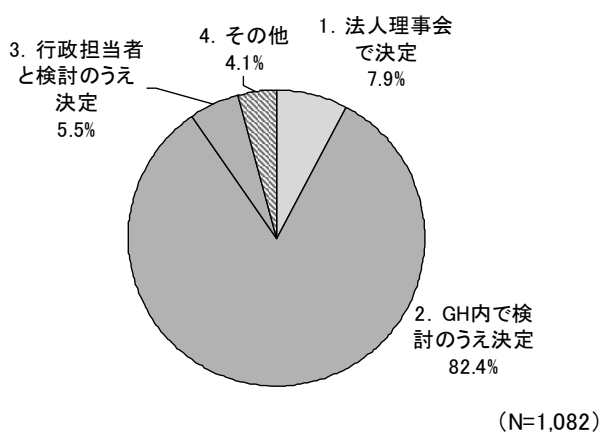
## 会議の進行役(司会者)

- 進行は「管理者」が行うことが最も多く、1082件中708か所(65.4%)である。
- 次いで「法人代表者」が132か所、「計画作成担当者」が65か所、「介護職員」が51か所となっている。
- 少数ではあるが、「民生委員」「利用者の家族」「町内会長等」など、外部者による司会は少ない。



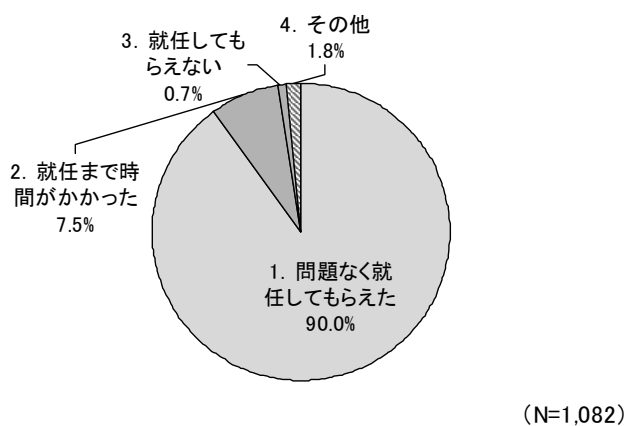
## 参加メンバーの決定方法

- 参加メンバーの選定は、82.4%の事業所で「グループホーム内で検討のうえ決定」されている。
- その他では、「法人理事会で決定」が7.9%、「行政担当者と検討のうえ決定」が5.5%となっている。



## 委員就任の応諾状況

- 委員就任の依頼に対する反応については、9割が「問題なく就任してもらえた」と回答しており、「就任してもらえない」は、僅かに0.7%となっている。



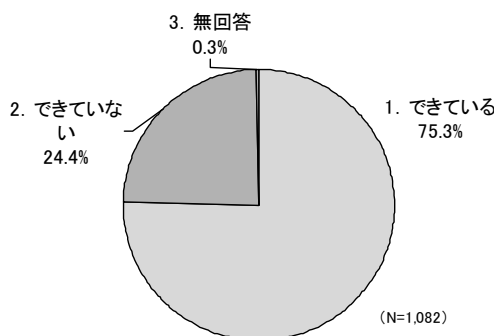
## 委員就任のための行動や工夫の内容(一部抜粋)

- ・ 開設前より地域の町内会の方と関わりを持ち、運営に理解を求めようとした。
- ・ 地域の長の方と共に民生委員の方への参加をお願いする等、地域内のキーパーソンとなる方を見つけ、又、信頼関係を築いた後に輪を広げて行く様に心掛けた。
- ・ 民生委員の方はこちらでは決められず、市役所の管轄内の民生委員会に依頼状を提出し、会議で了承していただき、その中で我がホーム担当の指名書を受け取り決定された。又、町内会長に就任していただくために町内会にホームでも参加し、常会や行事に出席している。
- ・ グループホームに見学をお願いし、グループホームの暮らしなどへの理解をもらった。
- ・ 直接出向いて会議の目的や意義等を説明させて頂いた。
- ・ グループホームの運営を説明し、ご理解の上賛同を得た。
- ・ 会議の内容を説明し、わかりやすい様な内容にした。入居者の家族に介護関係の仕事の方がいたら、積極的に声をかけた。
- ・ 来園された時に協力をお願いするも引き受けてくださる方が居ないのが現状です。2ユニットなので各ユニット毎に家族代表として1名選出し運営推進会議においては積極的に参加して頂いていましたが、現在退去されてしまったのでご協力をお願いしています。
- ・ 行政に相談し、決められた構成メンバーでよいのか、一緒に検討してもらった。地域の方には必要性を説明し、数回来てもらうごとに理解してもらえた。家族の方は2名お願いし、1年ごとに一人ずつ交代しているが、仕事をされておられない方で協力いただけそうな方に声を掛けている。
- ・ 管理者が訪問し口答及び書式等を作成、説明。GHの訪問(見学等)を行っていただく。
- ・ 自治会長さん等交替時には申し送り事項として会議出席をお願いをさせていただいている。
- ・ ご自宅に訪問して依頼しました 他

## Ⅲ 運営推進会議の開催状況

### 2ヶ月に1度の開催について

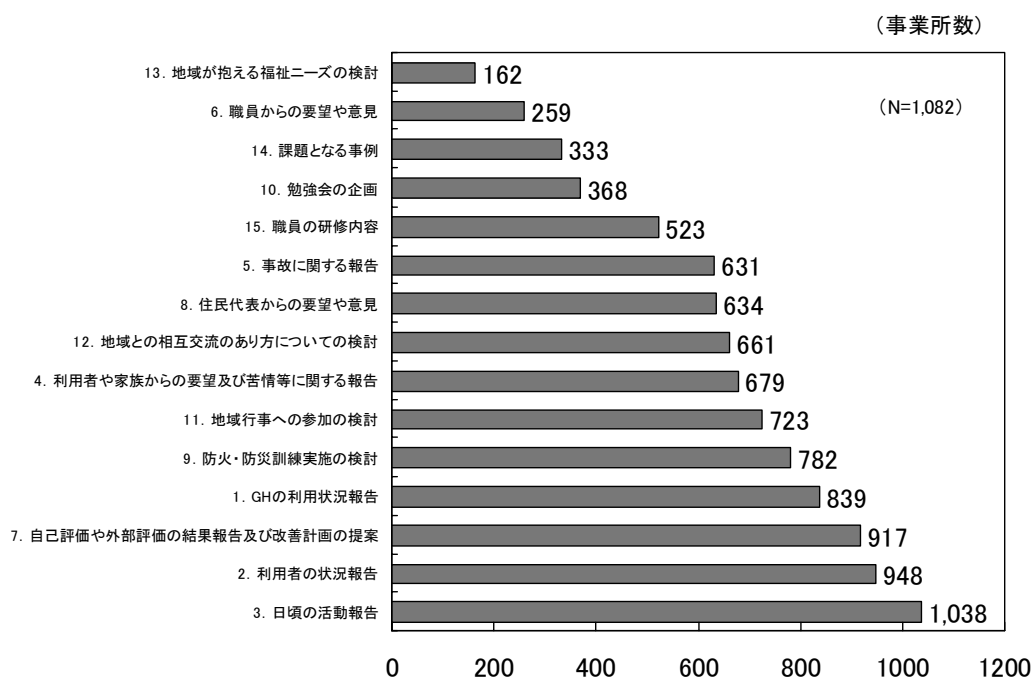
- ・ 2ヶ月に1度の開催が出来ているか否かについて聞いたところ、「できている」が75.3%で、「できていない」は24.4%である。
- ・ 「できていない」と答えた事業所の開催状況は、「3～4ヶ月に1回」が197か所、「半年に1回」が39か所、「年に1回」が16か所と続き、「開催していない」が4か所となっている。



「できていない」の場合	事業所数
1. 3～4ヶ月に1回	197
2. 半年に1回	39
3. 年に1回	16
4. 開催していない	4



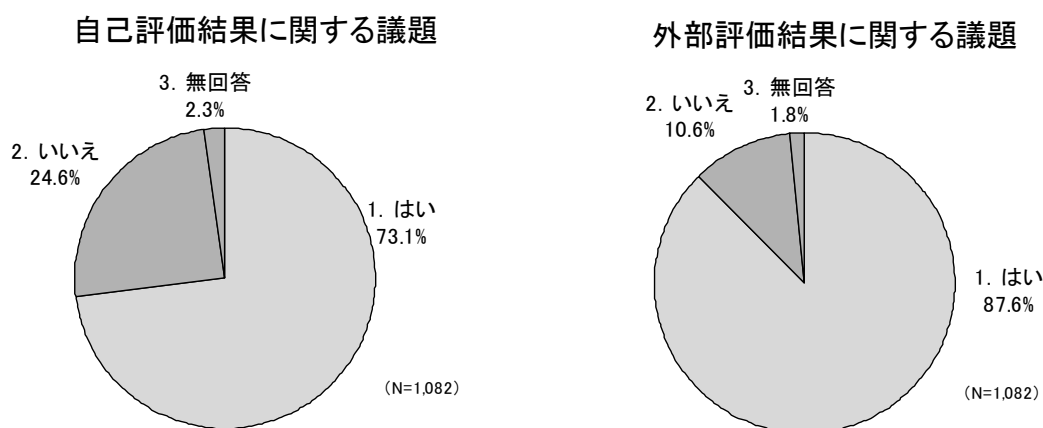
## 議題・検討内容



- 議題や検討内容を聞いたところ、「日頃の活動報告」1038件、「利用者の状況報告」948件、「自己評価や外部評価の結果報告及び改善計画の提案」917件等の項目が多くなっている。
- その他では、「GHの利用状況報告」839件、「防火・防災訓練実施の検討」782件、「地域行事への参加の検討」723件、「地域との相互交流のあり方についての検討」661件などであり、地域との交流に取り組む様子がみてとれる。
- また、「利用者や家族からの要望及び苦情等に関する報告」が679件、「住民代表からの要望や意見」が634件で、透明性のある運営や地域ニーズの拾い上げをすすめていることが見受けられる。

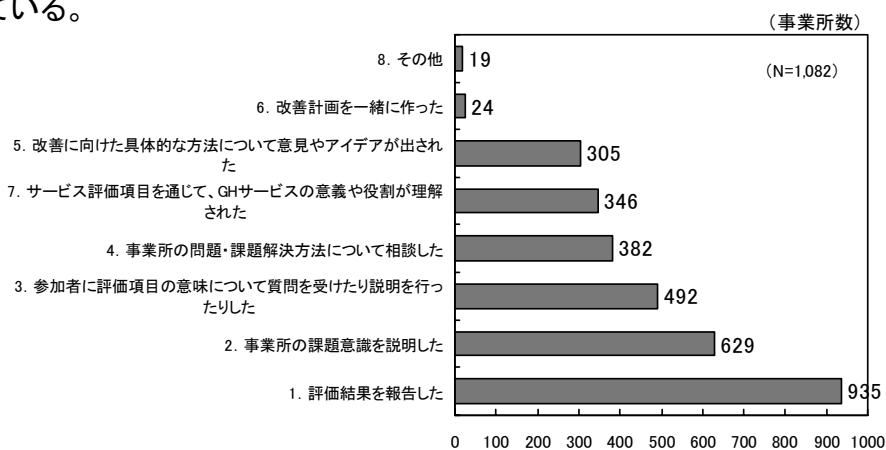
## 評価結果の情報共有について

- ・ 自己評価結果に関する議題については、全体の73.1%の事業所が取り上げている。
- ・ 外部評価結果に関しては、87.6%の事業所取り上げている。



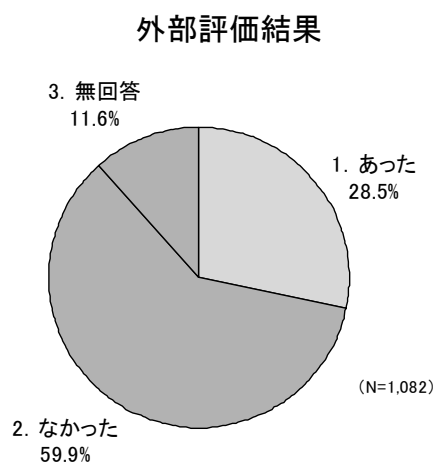
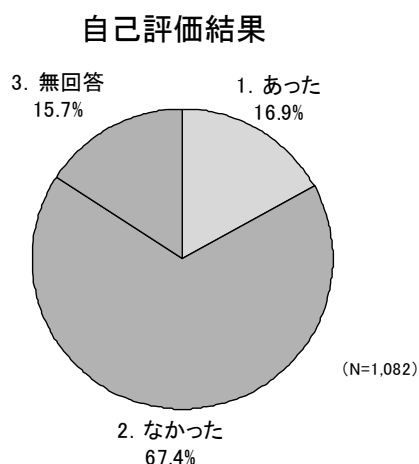
## 評価結果に関する検討内容

- ・ 「評価結果の報告」は935か所(86.4%)の事業所で行われており、「事業所の課題意識の説明」は629か所(58.1%)となっている。
- ・ 次いで、「評価項目についての質疑応答と説明」が492か所、「サービス評価項目を通じて、GHサービスの意義や役割が理解された」が346か所、「事業所の問題・課題解決方法について相談した」が382か所、「改善に向けた具体的な方法について意見やアイデアが出された」が305か所などとなっている。



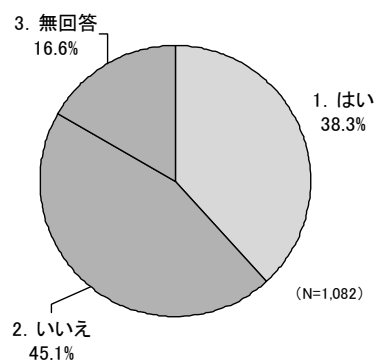
## 評価結果に対する会議メンバーの意見

- 評価結果を検討する際、結果に対する異論や意見の有無を確認したところ、自己評価結果では、「あった」が16.9%、「なかった」が67.4%である。
- いっぽう、外部評価結果では「あった」が28.5%で、自己評価結果よりも若干割合が高い。



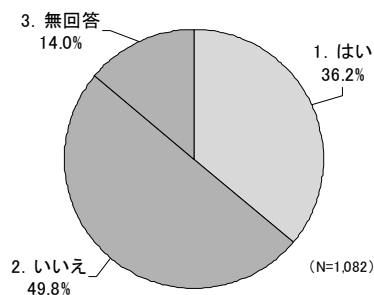
## 外部評価に対する会議意見の 評価機関への連携

- 会議で得られた意見を評価機関に連携した事業所は、38.3%となっている。



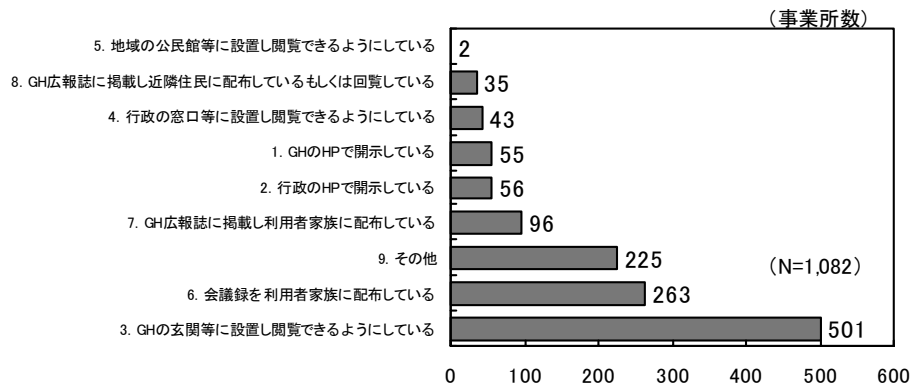
## 改善に向けた運営推進会議の モニタリング機能

- 運営推進会議が改善に向けたモニタリング機能を発揮していると答えた事業所は、36.2%である。



## 議事録の公表方法

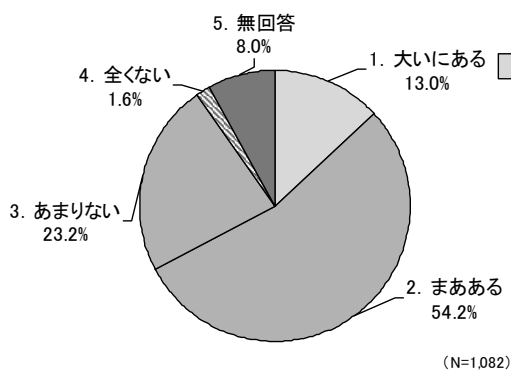
- 運営推進会議の議事録公表方法について聞いたところ、「GHの玄関等に設置し閲覧できるようにしている」が501か所、「会議録を利用者家族に配布している」が263か所、「GH広報誌に掲載し利用者家族に配布している」が96か所などとなっている。
- グループホーム内および家族への開示が中心となっており、広報紙やホームページ等を使った地域への発信は、消極的な状況といえる。



## IV 運営推進会議の有効性(影響)

### 参加者の意識の変化

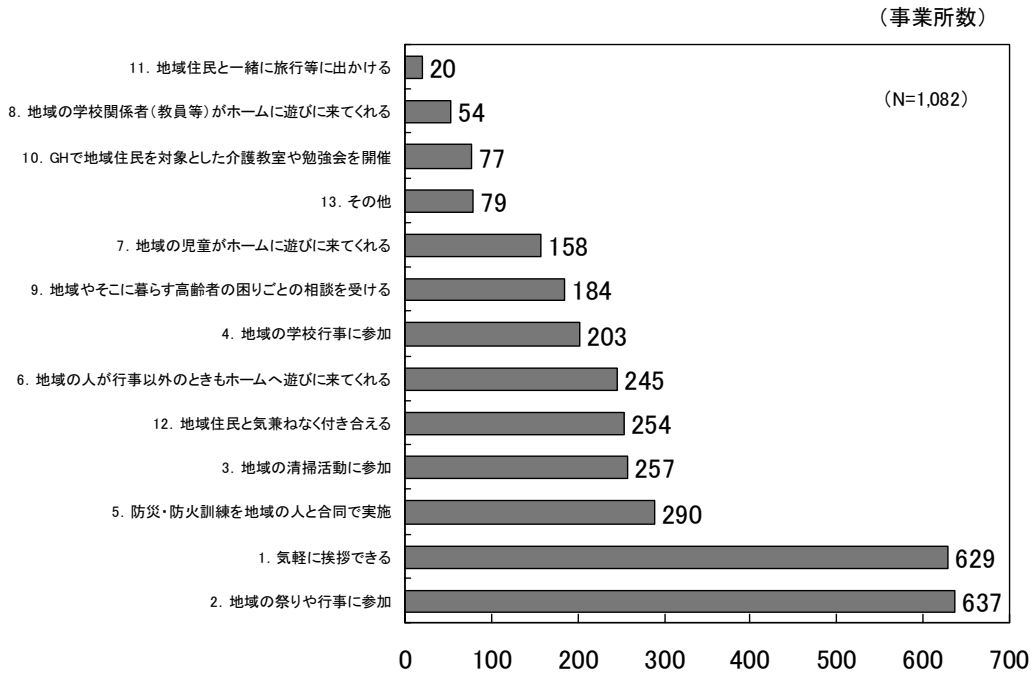
- 運営推進会議の開催を重ねる中で、参加者意識に変化がみられるかとの設問に対して、「大いにある」は13.0%、「まあある」は54.2%で、7割弱が意識の変化を自覚している。
- 具体的な変化としては、認知症に対する理解やグループホームを応援しようとする意識、一緒に何かをやろうという気持ちや関わりの面で、変化が生じている。



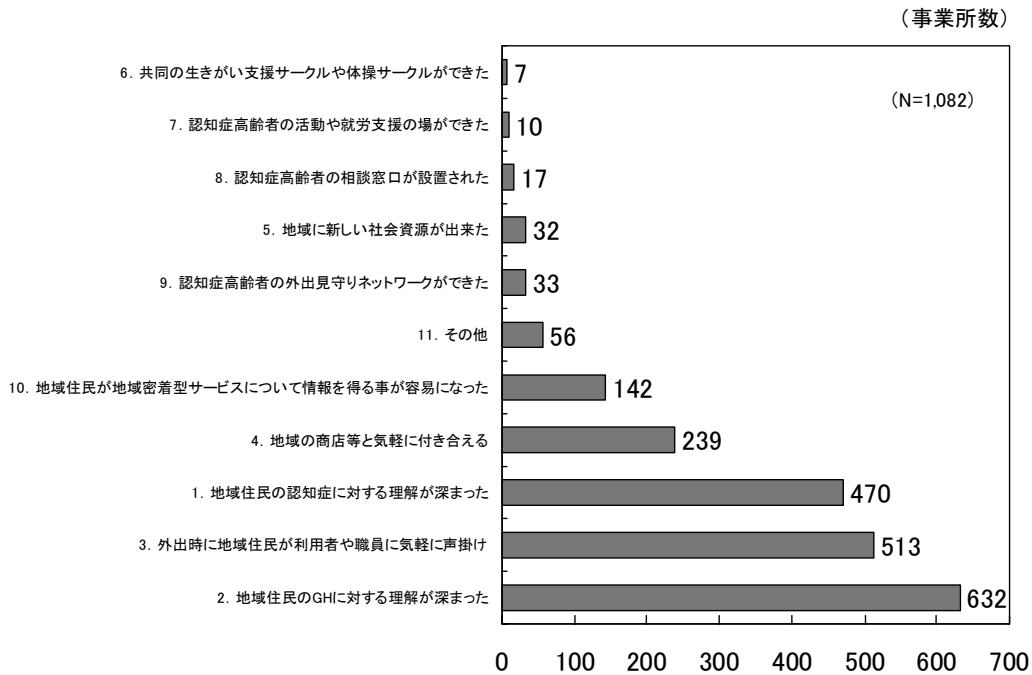
(自由回答抜粋)

- より地域との協力をどう図っていくか前向きな意見がもらえる。
- 直接的に入居者と対話されるのでお互いが顔見知りとなる。
- 非常時の強い味方になってくれる意識が育っている。
- グループホーム職員とともに、地域の中で共に生活していくという意識をもってくれるようになった。
- 認知症グループホームの理解が深まった。
- 各地区のイベント等、どこそこで花が沢山咲いていたから、行ってみたら等、情報を入れてくれるようになった。
- GHの存在を身近に感じてもらえるようになった。(立ち寄りやすくなったとのこと)
- 自然な会話が生まれた。
- 自治会との交流の機会が増え、認知症の理解が深まった。
- 町内を散歩していると、気軽に声を掛けてくれるようになった。

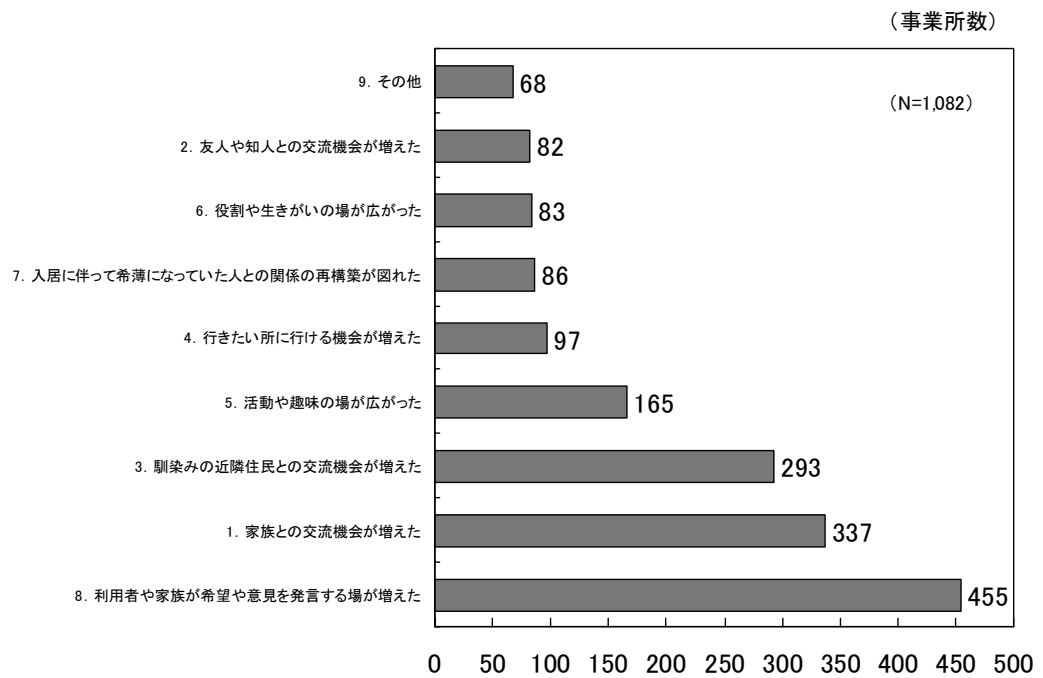
## 会議の影響\_ 地域との交流・関わり方の変化



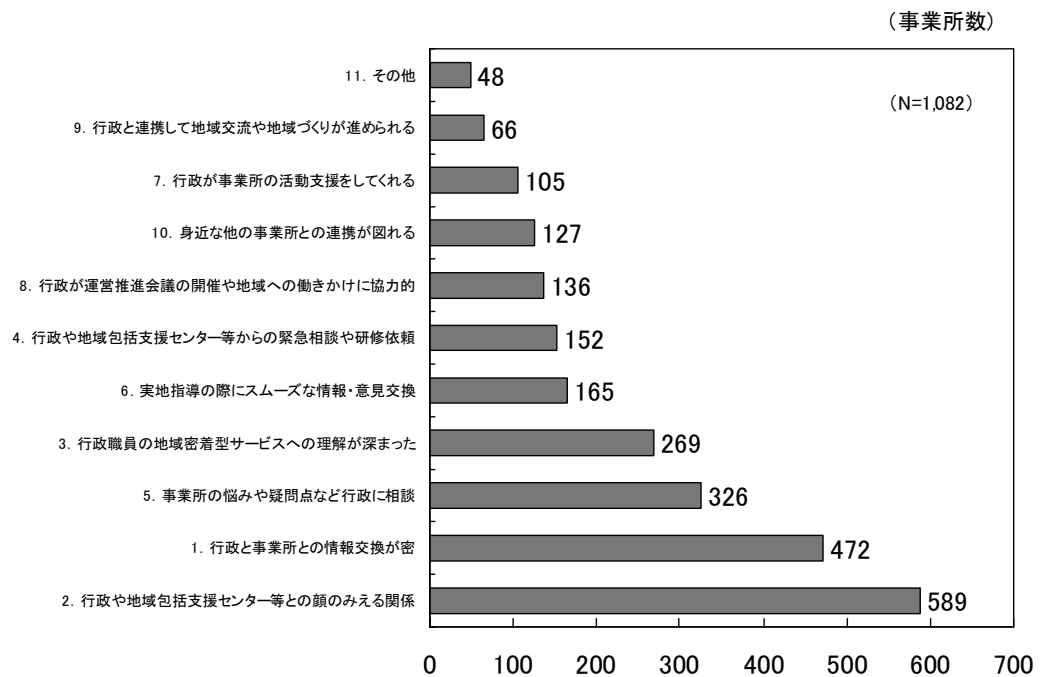
## 会議の影響\_ 地域住民の変化



## 会議の影響\_ 利用者の変化

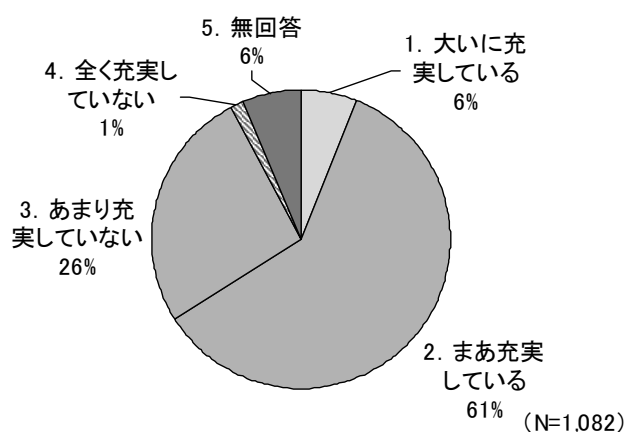


## 会議の影響\_ 行政と事業所の連携の変化



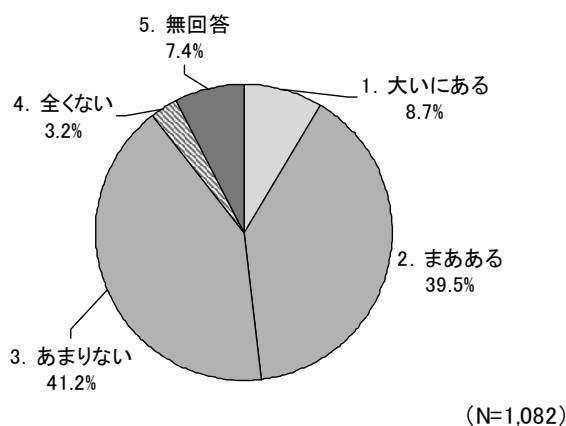
## 運営推進会議の充実度(感想)

- 運営推進会議の充実度に関する回答者の感想を聞いたところ、「大いに充実している」が6%、「まあ充実している」が61%で、「あまり充実していない」は26%、「全く充実していない」は1%である。



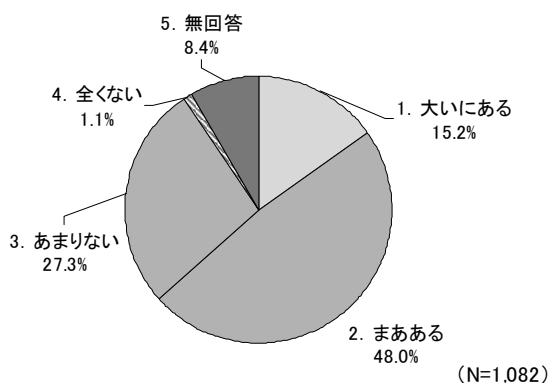
## 運営推進会議をきっかけにした運営の工夫や改善

- 運営推進会議がきっかけとなって、事業運営の工夫やケアサービスの改善に活かされたことの有無を聞いたところ、「大いにある」が8.7%と「まあある」が39.5%で、合わせて5割程度の事業所が何らかの効果を実感している。
- いっぽう、「あまりない」との回答も4割程度ある。



## 開催者側が感じる会議の問題点や課題の有無

- 開催者側として、運営推進会議に課題や問題を感じているかを聞いたところ、「まあある」が48.0%、「大いにある」が15.2%となっている。
- 具体的には、「関心を高める議題の設定」や「日時の設定や資料準備等の煩雑さ」等が指摘されている。

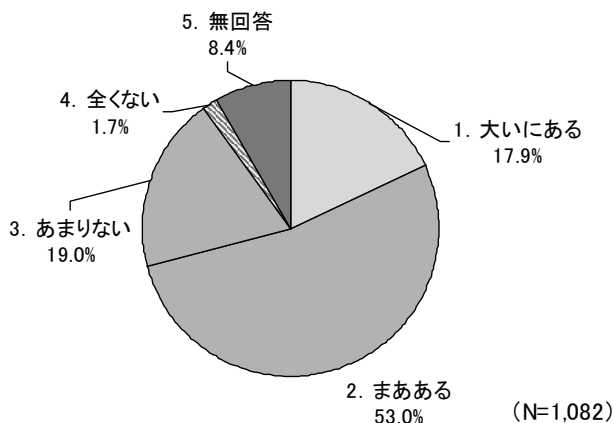


(自由回答抜粋)

- いつも同じ内容になり、どんな内容にしようかといつも困っている。
- 利用者本人同席の中で認知症の話題をしなければならない。
- 家族の参加。資料作り。開催頻度が多く、参加者に都合悪い。
- ほとんどが状況報告で終わっている。地域包括支援センターとの連携が全くない。
- グループホームの為の会議の開催になっていて、地域の為に行動を起こすまでには至っていない。
- 義務化、慣習化している。
- 開催の準備時間が作れない、近隣住民の偏見がなかなか払拭できない。
- 毎回どのような議題を取り上げたらよいか悩む事が多く、苦労する。マンネリ化してきているように感じることもある。
- GH職員の運営推進会議に関して理解が低い。
- 参加者が積極的でない為、どうしても施設の一方的な会議になりがちである。
- 参加者が回を重ねるごとに少なくなる。話す内容や情報の提供に興味を感じなくなってきている。毎回、同じ内容と個人情報を開示しないと提供できないことがあり、開催する側もこの推進会議開催に疑問を感じてしまう。他

## 運営推進会議の効果

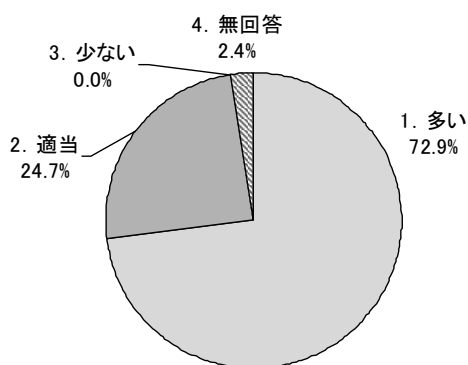
- 運営推進会議の目的・意義・効果の有無について聞いたところ、「大いにある」が17.9%、「まあある」が53.0%で、全体の7割程度の回答者が肯定的な意見を示している。
- いっぽう、「あまりない」は19.0%、「全くない」は1.7%で、2割程度で否定的な意見を持っている。





## 現行の開催頻度(月2回)に関する感想

- 現行、月2回の開催頻度について感想を聞いたところ、「多い」が72.9%、「適当」が24.7%で、「少ない」との回答はなかった。
- 「適当」以外に回答した者に対して、ちょうどよい開催回数を尋ねたところ、「4回/年」が358件で最も多く、「3回/年」が213件、「2回/年」が165件となっている。



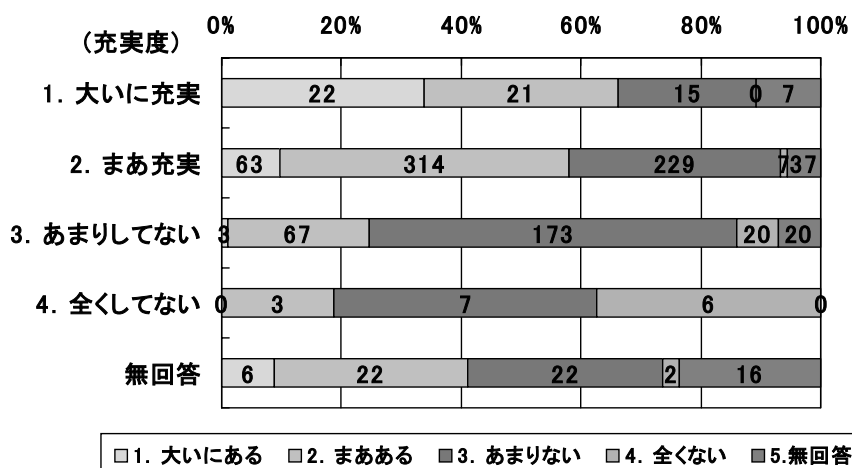
「適当」以外を選んだ回答者の  
ちょうどよい開催回数(年間)

0回	2
1回	14
2回	165
3回	213
4回	358
5回	4
6回	17

(N=1,082)

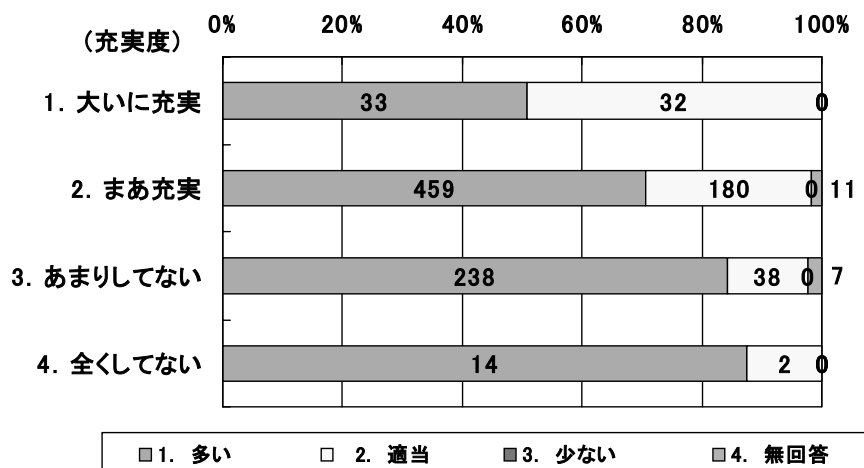
## 運営推進会議の充実度別・運営・ケアの質の改善

- 運営推進会議の充実度別に、事業運営やケアの質の改善への影響をみると、「充実している」と回答した事業所では、改善したと回答する割合が高く、充実していないと回答した事業所では、改善への影響も低い。
- 会議が充実することにより、事業運営やケアの質改善に結びついていくと感じている事業所比率が高くなっている。



## 会議の充実度別・開催頻度(2ヶ月に一度)に関する意見

- 運営推進会議の充実度別に、求められている開催頻度(2ヶ月に1度)に対する感想を聞いたところ、充実していると回答した事業所よりも、充実していないと回答した事業所の方が、負担感が大きくなっている。
- 開催に対する負担感は、いかに会議を充実させていくかに影響されると考えられる。



## 4. 自由回答のまとめ

### (1) 運営推進会議開催にあたっての苦勞・課題・問題について

設問：(Q28) 運営推進会議を開催する側としての苦勞や、課題・問題

#### 主な意見 1: 議題・話題作りについて

キーワード：マンネリ化、参加者間の関心の相違、配慮の必要性、主催者主導、等

<自由回答より抜粋>

- ・ 2～3年経過すると議題もなくなったり、一度取り組んだ議題を見直したり、外部評価結果報告などくり返し行っている状態。
- ・ 義務としてやるからには前向きに取り組んでいるが、マンネリ化傾向で町区会議への足は重くなって来ている。会議の存在より、質の向上には自主活動で充分。
- ・ 御家族が関心を持てる議題を提供できているか？毎回参加される顔ぶれが同じであり、幅広い地域の方に参加してもらえていない。
- ・ 回、利用者の状況報告、活動報告をしていますが、パターン化しているので、行政の方や地域の人に尋ねると、難しい事は困難。
- ・ 2ヶ月に1回の開催は、議題の提起が難しい。どうしても同じような内容が増えてしまう。
- ・ 参加メンバーの固定化が見られ、内容も報告事項中心となりがち。より良い施設運営を図れるような方策の検討等、改善していきたい。
- ・ そもそも参加者に自主的参加の意図は無く、仕方無しにお付き合いで参加している。そういった会議を少しでも参加して良かったと思われるために議題の選択に苦勞するし種も尽きてくる。
- ・ 利用者本人同席の中で認知症の話題をしなければならない。家族の参加が無い。資料作り。開催頻度が多く、参加者に都合悪い。
- ・ 行政や地域住民の方々との方向性が大変になってきている。
- ・ 会議参加メンバー各々の立場で、知識や情報に差を感じる。そのため共通に話せる内容や難しい内容は避ける等に配慮している。
- ・ 利用者やホームの近況報告や、活動内容の報告が多く、グループホームへの意見や助言がだしにくいと思う。
- ・ 何のための会議か、常に原点にもどり企画して行くことが重要と感じています。(受身の会議はゆきづまると思っています。)

## 主な意見 2: 事業所の負担

キーワード： 開催回数、日程調整、場所の確保、等

### <自由回答より抜粋>

- ・ 現時点では充実していますが、今後、回数を重ねる毎にその議題内容に苦慮することが予想されます。運営推進会議の有効性は理解しますが、2ヶ月に1回という回数は問題を感じています。
- ・ 開催回数が多すぎるので議題や企画を考えたり、職員も少ないので準備やメンバーをそろえるのも大変である。
- ・ 年6回の実施が出来るようになったが、開催から報告までで終わったらすぐに次がある、ご家族様よりもイベントのときなどに一緒に行ってもらいたい等の意見も聞かれた。年に4回として頂きたい。
- ・ ご家族に出席を働きかけるが、打診は2割台。利用者への出席は18名の入居者の中で候補者が限られてどなたでも良いという事にはならない。GHの一面のみが表現される事になる。議事録作成 etc それなりのエネルギーが必要で年4回（春夏秋冬）のピッチが妥当のように思える。
- ・ 回数が多い。自治会イベントなど顔を合わせる事が多いので、2ヶ月に1回もいらない。
- ・ 2ヶ月に1回は多すぎる。元々、家族会を年4回開催している為、+単独で運推2回、家族会+運推4回としているが、議事録作成後、次回の案内、その繰り返しの事務仕事で大変。内容も毎回考えるのは困難。
- ・ 参加者の日にちを決定。調整するのが大変。（皆さんお忙しい方が多いので）
- ・ 認知度の高まった中、医療関係や家族への連絡が多く又提出書類も増加している中で運営推進会議のための時間の捻出が厳しい。
- ・ 回数が多い。（今の半分位にして欲しい。）小規模施設では事務量が負担になっている。
- ・ 2ヶ月に1回の開催が負担である。事業所としては日常の介護の他に、外部評価、市による実地指導、今年度からの情報公表など公的な事項に対しての準備等もあり、会議の開催のための準備を負担に感じている。（会議の議事の設定、日程調整、案内状の発送、参加の確認、当日の会場設営、議事録作成、議事録等を参加者に発送→一連が終了するとすぐ次回の準備が必要。）また、近隣の住民、民生委員、町内会への参加のお願いも2ヶ月に1回はないと断られることもあり、運営推進会議に対するとらえ方が一般の方から得られていない現状。事業所だけの努力では”地域で支えるグループホーム””地域密着型サービス”ということは困難である。
- ・ 業務中に開催する事により、利用者の場所を確保する事に苦勞する。2ユニットの片方に全員移動しなければならないこと

### 主な意見 3: 参加者が集まらない

キーワード：仕事、メンバーの入れ替え、入居者の参加、家族の参加、等

#### <自由回答より抜粋>

- ・ 地域の役員等が参加している為、ややもすると欠席者が多かたりする。
- ・ 委員の方々もお忙しい方たちなので、2ヶ月に1回の開催に少し気が引ける。固定委員の方以外にも出席いただきたく、声をかけてもなかなか出席には至らない。固定委員の方々に頼りきった状況で、報酬も用意できなく、申し訳なく思う。
- ・ 利用者本人同席の中で認知症の話題をしなければならぬ。家族の参加が無い。
- ・ 委員の皆さんに参加してもらえよう日時を考慮すると、夜遅くなってしまう。委員が変わるとこれまでの経緯を理解していただくまでに時間がかかる。
- ・ 2ヶ月に1度だと参加してくださる方もお仕事の都合もあり、参加者が限られてしまう。休日に設定すると行政の方の出席が厳しく、設定が困難。
- ・ 御家族が関心を持てる議題を提供できているか？毎回参加される顔ぶれが同じであり、幅広い地域の方に参加してもらえていない。
- ・ 出席者が固定している。他にも出席を働きかけていきたい。会議の内容が関係者すべてに届いていない。(玄関先に設置しているが見る方は少ない)
- ・ 家族全員の意見、要望を聞きたいが、代表者として参加して頂いているので、すべての家族がそう同じ意見、要望を持っているとは限らないので、どうすればまとまった意見を聞けるかが議題と思います。

### 主な意見 4: 協力体制

キーワード：行政の意識、地域住民、人間関係、等

#### <自由回答より抜粋>

- ・ 行政からの意見、要望が少なすぎて行政に全く反映されていない。行政からの出席者が義務的過ぎる。
- ・ 報告が中心、意見を活発に言ってくれる人は限られている。行政の協力があまり得られない、担当者が春に変わり、ようやく参加してもらえようになってきた。
- ・ 行政、特に市役所職員は忙しいとの事で1度も出席がない。生活保護の方も何名もおられ、特に身寄りのない方などは、市の力を借りたい。相談事も多々ある。
- ・ 行政がもう少し、この会議の方向性(具体的に)を指し示してほしいです。
- ・ 行政がホームの会議に出て来ることは、包括センターにまかせてあるからと1度もなく、報告書のみで終わっている。土地がら別荘地の中にある為、なかなかこれ以上の関わりがむずかしい。
- ・ 欠席者が代役を立てたり等、プライバシーや個人情報の保護等に気をつかう。勝手にい

ろんな方が出席しがちなので事前に打合せをして欲しいが地域の中の難しい関係に巻き込まれそうになる。

- ・ 本体の病院と当事業所それぞれの町内会長に出席頂いているが、2人の町内会長と当事業所の関係性が難しい。

#### 主な意見 5:その他

キーワード：準備業務、テーマ設定、進行技術、要望の重圧、職員の理解、等

##### <自由回答より抜粋>

- ・ 担当者が利用者の対応等に追われてしまい、資料作成上の制約時間が後押しされている事が問題。また、議題や問題点を適当に列挙する事が出来ないことも問題である。更に、運営推進会議の意義が理解されていないことが一番の問題である。それら関係者に、説明や現場での問題提起への工夫を施すだけで、精一杯である。
- ・ 家族や地域からの不安点や知りたい議題を出来るだけ取り入れる様工夫する。ただ、他の活動等の報告は、一方的に管理者が報告する事が多く、もう少し出席者の意見を引き出す工夫が必要と痛感している。
- ・ 活動報告等が主になりがちなので共同で行い、もっと気軽な取り組みも必要であると考え、推進会議の運営を一般職員により関わってもらえるようにした。
- ・ 意見を求めても、いつも同じ方が発言されている。意見を言わない方は、意見がないのではないと考えるので、もっと意見が言いやすい雰囲気を作っていかなければ…と考える。
- ・ 建設的な意見に対して、具体的に実践できる方策をすぐに講じられない。
- ・ 家族の要望が増え、運営上困難な事まで意見として出ている。
- ・ 欠席者が代役を立てたり等、プライバシーや個人情報の保護等に気をつかう。勝手にいろんな方が出席しがちなので事前に打合せをして欲しいが地域の中の難しい関係に巻き込まれそうになる。
- ・ 報酬を出せない。(出席に際し、申し訳けないとの気持ち)
- ・ 職員の運営推進会議に関して理解が低い。
- ・ 認知症について関わろうとする時の壁を感じる。自分達とは違うという目で見てるので距離感がある。
- ・ 地域住民の方に認知症の理解が深まるように情報の発信につながらない。
- ・ 認知症に対する理解がなかなか図れない。

## (2) 事業運営の工夫やケアサービスの改善内容

設問 (Q29) : 運営推進会議の開催がきっかけとなって、事業運営の工夫やケアサービスの改善につながったこと

### 主な意見 1: GH や認知症の理解を深める取り組みの広がりに関する意見

キーワード : SOS ネットワーク、広報誌、介護教室、等

#### <自由回答より抜粋>

- ・ 構成員からの意見を参考に徘徊ネットワーク作りを始めた。
- ・ 地域の代表者から介護や福祉に関する意見、見解を知ることができると共にホーム自体及び認知症についての理解を深めることができ、外出時の地域の声掛け、見守り等の気遣いを示していただけるようになった。
- ・ 町内会の回覧板に GH の広報誌を毎回付けてもらえるようになり、GH の認知度が上がった。
- ・ 住民の方がグループホームを知るきっかけになれば…ということで、グループホームで作品展を行うことになり、同じ日に公民館まつりの展示に参加させていただくことになりました。
- ・ 昼食を利用者様と一緒に召し上がって頂き、食事内容や雰囲気についての意見をいただいた。
- ・ 徘徊時不明になった場合は、町内放送で知らせる。徘徊時バックの内に写真付きカードを入れておく。GPS を利用し、カード内にチップを入れる（費用の問題が大きく、保留）。利用者の希望する事を今以上に取り入れる。
- ・ 町内や地域への関心や意識が高まったことで利用者の GH での暮らしがより地域へ目を向けた暮らしになりました。ただ単に、GH 中でお話するのではなく、地域の一員として暮らすことを大切に暮らすようになりました。たとえば、町内行事等へ積極的に参加するなど。

### 主な意見 2: 緊急時の対応や事故を防ぐ為の対策・危機管理体制づくり

キーワード : 誤飲予防、避難訓練、物品備蓄、協力体制、地震対策、防災協力協定、災害時連絡体制、地域消防団との関わり、等

#### <自由回答より抜粋>

- ・ 非常時の備えとして、どのような物品を備蓄しておいたらよいか話し合い、そろえることができるようになった。避難場所（地域の中の）の通常の状態（カギがかかっているグラウンドであり、そのカギをどこの部署で保管しているかなど）を知ることができて、

避難誘導時の準備が万全となった。

- ・ 6ヶ月に1度の消火避難訓練の報告に対して地震対策はどうかと質問があり、その後、地震対策マニュアルを作成し、非常食の購入、災害グッズの配備を行った。
- ・ 近くの住民による、災害時における支援が具体化し、防災協力協定ができた。
- ・ 避難経路の改善→車イスの方もスムーズに避難出来るよう、スロープの設置が出来た。夜勤体制のあり方→老健の看護師が応援に来てくれるようになり、職員に安心感が出来た。
- ・ 防災訓練についてはアドバイスをもとに消防署協力の下、当ホーム内での避難誘導のあり方に工夫を持てるようになった。
- ・ 合同で避難訓練を行い、地域住民の協力内容や避難方法の改善が図られた。職員の訓練の重要性の指摘→（職員だけの訓練の実施予定。）
- ・ 参加者に地元の災害ボランティアコーディネーターが入り、防災に対する意識も強くなり勉強会も行われるようになった。
- ・ 地区自主防災会に加盟させていただき、災害時における協力に関する協定書を締結できた。避難訓練時に発煙筒を使用してみるのは助言を頂き実際にやってみた。
- ・ 防災訓練を一緒に行った。その時の不足点を教えていただいた。座布団を防災頭巾代わりにする。火災の時バルコニーに避難。洗濯物干してあった場合、燃え移るので干してはいけない。防災時の家族への連絡網を作る。
- ・ 消防署員立ち会いのもと避難訓練等、委員さんや家族参加の呼びかけに応じてもらい、グループホームの実態の周知が出来ている。

### 主な意見 3: 地域住民、家族、行政などとの良好な関係性構築による支援の充実

キーワード：ボランティア、外出機会の増加、気軽な立ち寄り、利用者の新しいつきあい、地域の資源、情報連携、行政との連携、他事業所との関係、地域の意見収集、家族との交流、婦人会との関わり、等

<自由回答より抜粋>

- ・ 認知症の人への近隣の方の理解が少しずつではあるが得られるようになり、気軽に立ち寄って下さるようになった等して、社会的接点が広まった。
- ・ 行政との連携が密になり、運営、活動内容を理解してもらえるようになった。ご近所の方とおつきあいがお互いしやすくなった。
- ・ 福祉サークルとの継続的な交流会の開催や地域の食生活改善推進委員との交流など行うようになりました。入居されている方には新しい人とのつながりを支援できるようになったと思います。
- ・ 直接、家族、地域からの声をきく事ができる。色々な意見や考えがきける。苦情についても「言いやすい」と意見が出た。



- ・ 町内の方や公民館を利用している方からの働きかけがあり、積極的にボランティアの方に来ていただけるようになったこと。市の職員・包括支援センター職員の会議への参加について話し合い、提案が積極的に出たこと。
- ・ 行政や地域包括支援センター等との情報交換が密になり、色々の勉強会への誘いの話が多く、勉強会で習ってきた事を活かしサービスにつながっている。
- ・ 老人会への参加ができた。老人会へ参加する事で地域とつながりが密となり、GHからの呼びかけ（行事参加）に対しても積極的な参加があり、GHへの理解が増えてきている。
- ・ 地域のボランティア団体の招致がしやすくなった。地域住民との交流が図れるようになった（園の機関誌を回覧板に入れていただき紹介している）その効果もあり、近所の方から花、野菜、果物等気軽に持ってきていただいている。
- ・ 地域に見守られていることの実感がある。ボランティアに対しての「受身」だけでなく、利用者の方から地域に出向くボランティアのあり方をとの意見をもとに、地域の清掃、文化祭の作品出品など活動が広がった。
- ・ ボランティア活動（近隣学校の草むしり）を始める事ができた。運営推進委員と利用者、職員との交流が図られるようになった。行事参加（社会福祉協議会や地域の行事）の機会が増えた。
- ・ 幼・小・中学生がボランティア職業体験など来てくれる様になった。近所の方たちも来てくれる様になった。地域の行事に呼ばれる様になった。
- ・ 利用者の家族やその他の参加されているメンバーからのサービスの提案や要望を出来るだけ取りあげて、その結果確実にサービスの改善につながっていると感じる。

#### 主な意見 4: 取り組みや個別支援に関する振り返りや新たな視点

キーワード：ホーム側からの働きかけ、自治会への加入、成年後見制度の利用、食事の内容、看取り介護の視点、目安箱設置、職員の服装、外部の意見、職員の意識変化、等

#### <自由回答より抜粋>

- ・ ホーム側からの働きかけが大事なきっかけになる事がわかり、地域に向けて発信する。
- ・ 利用者の個別ケア方法について、ご家族や地域包括担当者の意見や希望、また、入居前の様子を知ることができた。
- ・ ケアサービス提供内容を開示するので、必ず実行出来る支援内容を職員共に感じる様になった。その意味では、利用者への援助が充実しつつある。
- ・ 第三者の目（見られている）があるので、より良いケアをとり、認識向上。
- ・ 看取り介護の可能性を探るきっかけとなった。
- ・ 御家族の方は入居者の方の日課活動について不満があり、見直すきっかけとなった。運

営推進会議を通して、御家族の方とのコミュニケーションの重要性を管理者が再認識できた事により、職員にも意識づける事につながった。

- ・ 事業報告の際、写真を提示しているが利用者の生き生きとした表情を見せるたびに、この次はもっと利用者にとって生きがいを感じるような事はなにか？と工夫するようになった。
- ・ 面会時等に随時、要望、希望等を確認し、スタッフ間で共有できる工夫をしているが、運営推進会議に参加可能なスタッフが一度に直接聞く事ができる場となっている。事業所としては、さらに努力や工夫が必要であると感じており、スタッフの意識を高めるきっかけとなるように前向きに取り組んでいきたい。
- ・ 入居者本位でのケアサービスを再認識する事ができた。家族や第三者の視点や意見を伺う機会を得ることができた。
- ・ 私達があたり前だと思っていることが、地域（一般の人から）から見ると課題であることやおかしく感じることもあることが分かった。その意見を参考にホーム内でスタッフと話し合い改善につなげていることもある。
- ・ スタッフのスキルアップを見ていただくことによってスタッフ自身が喜びを感じ質の向上が図られる。
- ・ 私達職員が日々の業務に慣れてしまい、気がつかないリスクに対して、アドバイスをいただき気づかされることもあるので、いただいたご意見に関して改善に努めている。
- ・ 夜勤が2ユニットで1名だったのが2名となり、各ユニットで夜勤が出来るようになった。マニュアル作りの改善につなげることが出来た。
- ・ ホーム管理者や職員全員が、地域の方にご出席していただける工夫を考えるようになった。職員も地域の方と意識して関わっていくようにしようと思うようになってきた。

### (3) 事業所運営やケアサービスの改善につながる工夫やアイデア

設問：(Q31) 運営推進会議が、事業所運営やケアサービスの改善につながるための工夫やアイデア

#### 主な意見 1: 利用者の暮らしの質向上

キーワード：アドバイス、環境改善、災害時の対応、結果報告、改善策、等

<自由回答より抜粋>

- ・ 避難場所、方法など地区の方々によりアドバイスや方法など、意見をいただける。実際に災害が起きた場合、当ホームの駐車場に面している道路は交通止めになるのだから、近所の交番の方々にも推進会議に参加していただき、前の県道の片側を避難場所（待機場所…一時的な場所）としてお願いしては... など意見をいただける。
- ・ グループホームによる地域参加によって、利用者一人一人が馴染みの地域で認知症であるということを受け入れられ、地域の一員として生活出来る為の発信源として活動出来るよう、情報公開や地域の行事参加等、施設参加の場面を継続している。
- ・ 地域のボランティアの受入、中学生の福祉体験、幼稚園との交流等地域との関わりを持ち続けていく事が運営やケアサービスの改善に繋がっていると思っています。
- ・ 次回の会議までに前回の会議で相談したことを具体的に計画したり、実行するなどして、何らかの形で現状から少しでも前進するようにしています。そして、次の会議では取り組みと結果を報告し、評価してもらうようにしています。
- ・ 家族や相談員が施設に対して言っておきたい苦情や要望は重要な意見と受け止めすぐ改善点を考え、報告書を作り、家族会などで報告を必ずする。
- ・ 地域包括支援センターの方、御家族の方、民生委員さんからいろいろな情報を頂き、グループホームのレクリエーションに新しい物を取り入れています。

#### 主な意見 2: 認知症ケアの理解

キーワード：一緒に過ごす、体験の共有、参加、地域の理解者、等

<自由回答より抜粋>

- ・ 現在は 14 時から行い、ホームの利用者と 3 時のおやつと一緒に参加者の方と過ごしていただいている。利用者を知っていただくと共に、生活している利用者の方々と社会生活をして行く協力を求める場になっている。
- ・ 介護体験を実施し、介護などについて知っていただく事ができた。
- ・ 現状を把握して頂く為に、行事に参加して頂き、現場の雰囲気や感動の場面に立ち会って頂いている。

- ・ 様々な活動を協働でやる事が出来るように話題（議題）として提示していく。
- ・ 認知症の勉強会など、地域の方々と行い、認知症の理解を深めたい。
- ・ 消防、警察、老人会など新しくメンバーになっていただけるよう働きかけていきたい。幼稚園、小学校、中学校に出向き、顧問のお願いにあがりたい。
- ・ 見学や利用希望者などが増えた。ヒヤリハット、事故対策などのヒントを得た。
- ・ 認知症についてのDVD等鑑賞していただき、少しずつ理解していただいています。
- ・ 消防署の職員が認知症の周辺症状を理解する事で、搬送先の通告が的確になった。民生委員が理解することで仲間への周知がスムーズになった。

### 主な意見 3: スタッフのスキルアップ・情報共有

キーワード：フィードバック、再検討、会議の設定経験、意見要望の取りいれ、  
結果報告、周知・連絡、学習会、等

#### <自由回答より抜粋>

- ・ 会議の中だけの話をせず、ホームに持ち帰り、ホームのスタッフと話し合いや情報提供していくことが大切であると考え⇒まず、実施につなげていく姿勢を持つ。
- ・ 会議の中で出た要望、疑問等を必ず参加してない家族、職員にもフィードバックし検討を行い、結果、経過を知らせている。
- ・ 日々の生活リズムや活動、事故報告など細かく報告することで、事業所内ではあたり前の環境に新鮮な意見が得られるのでは。運営推進会議で受けた意見を事業所内で再度検討することで改善につながっている。
- ・ 運営推進会議の担当スタッフを任命し、企画から議事録作成までやってもらっている。もちろん所長である自分が責任者なので担当者には「報告・連絡・相談」の徹底を促している。若いやる気のあるスタッフを育てる絶好の機会となっている。そのことで2ヶ月に1回定期開催が実行できていると思う。
- ・ 家族の意見、要望を聞き、又、包括、行政でもその意見、要望に対し、アイデアがあればホームの職員で話し合い、工夫を取り入れて、ケアサービスの向上、改善に努めていくことを心がける。
- ・ 次回の会議までに前回の会議で相談したことを具体的に計画したり、実行するなどして、何らかの形で現状から少しでも前進するようにしています。そして、次の会議では取り組みと結果を報告し、評価してもらうようにしています。
- ・ 運営推進会議に参加できなかった職員に議事録を回覧し、会議内容を周知できるようにしている。
- ・ 今後の予定として、救急法（消防署依頼）について、地域住民を含めて勉強していきたいと思っている。他施設、病院等から看護師に来て頂き、これから看取りに関しての必要性について話をして頂く。

#### 主な意見 4: 相談援助機能

キーワード： 相互扶助、相談窓口、等

##### <自由回答より抜粋>

- ・ 会議の中で課題などをありのままに伝えることが大切と思える。またお願いだけでなく、事業所側が出来ることは積極的に依頼を受け、相互扶助の関係を作ることが大切と考えます。
- ・ 自治会での「認知症勉強会」の開催。介護についての相談窓口の設置。

#### 主な意見 5: 透明性のある運営

キーワード： 情報開示、情報交換、広報、早急な対応、評価結果を活かした改善、地域ニーズの把握、等

##### <自由回答より抜粋>

- ・ どんな意見があっても、事業所として良い方向性を基本に、早急な対応をし、報告している。早急な対応をする事で信頼や協力が得られる様になった。
- ・ まず事業所自体何を行っているのかを会議の場で情報を外部の委員の方に伝えた上で、広く意見、要望、質問等を活動に活かし改善につなげていける取り組みが大切かと思えます。
- ・ その時々スポットをたて、課題等を検討しているが固定メンバーに加え、課題に関係する方に参加していただいている。その中で意見をいただく。
- ・ 外部評価の結果報告し、会議の中で改善点を話し合う。地域交流のきっかけや小学生との交流のきっかけとなった。毎年行っている家族様アンケートの項目のねらいについて助言を頂く。
- ・ ホームの2ヵ月毎の活動状況を細かく報告して皆さんに知ってもらうこと。当ホームでは月1~2回発行の「写真広報誌」で一目瞭然、皆さんに喜ばれています。
- ・ 福祉的分野だけでなく、幅広い話ができることで、運営やサービスの改善のヒントにつながる事もある。
- ・ 利用者の様子、変化を分かりやすく家族に伝えるために、写真を多く撮ったり、日頃の生活の中での一言など記録しておく。ご家族様が来やすいように、また来て頂くように家族会の開催や連絡など定期的実施していきます。
- ・ 運営推進会議では、利用者の日常の生活の実態をよく知ってもらう事が大切で、そのためにはスライド等視覚に訴えた説明が効果的だと思う。そうすれば、委員から意見が出やすくなる。
- ・ 認知症家族の会と推進会議員が交流できるよう相互に会へ参加し、利用者を取り巻く人々がどのような考えや気持ちを持つとともに変化していったのかを勉強していく。

- ・ 委員の中に地区区長さんが入っておられ、地区の会議等で会議内容（運営会議）や事業所について伝達していただいている。認知所の方やグループホームについての地域の方の理解を深めていただくよう、行事の参加や来訪を呼びかけたり、広報を行っている。
- ・ 利用者家族や職員が不安や不満に思っていることをあえて議題に取り上げ、現状報告やそれぞれの情報提供をすることが第1歩ではないでしょうか。なかなか会議では不安や不満は聴取できないので日頃の会話から引き出す事が大切ではないでしょうか。また、全ての職員に会議出席の機会を確保する事が大切だと思っている。
- ・ 会議の場に限らず、日頃から気軽に行き来できるように何か行事を控えている時は参加して頂くだけでなく、手伝って頂いて一緒に楽しめるよう配慮するなど交流の機会も大切な事と考える。自己評価や外部評価などの改善への取り組みをきちんとモニターしていくこと、利用者への満足度調査などの項目の検討。スタッフの待遇等で気づいた事を伝えてもらうなど。
- ・ とにかく、参加者を限定しないこと。当ホームでは1年間していただくために、委嘱状を発行し、依頼しているがそんな型苦しいことはせずに、もっともっと身近な人に声を掛けた方がよいのでは…？（運営推進会議の規定に従うととても固くなってしまう。）

#### 主な意見 6: 行政との連携

キーワード： 参加要請、PR、協力要請、等

<自由回答より抜粋>

- ・ 今回は地域包括の担当者が欠席の為、保健師とソーシャルワーカーが出てくれる。次回は市の生活支援課の担当者に依頼している。毎回同じ人ではなく、他からも要望し参加してもらおう。顔つなぎ作りをしていく、意見を聞く、GHの環境も見ていただき、良い住み家、生活の場としてサービスが提供できるようにする。
- ・ 運営推進会議の意義や本質を各地域の方々へ理解して頂くためのPR活動等を行政側より実施して頂けるとより効果的な運営推進会議を開催しやすくなるように思う。
- ・ 行政より他施設での出来事や緊急時での訓練、行事等を参考にお話をしてもらえる機会がある。

#### 主な意見 7: 地域づくり

キーワード： 信頼関係、橋渡し、連携、サポーター、地域資源の開発と活用、等

<自由回答より抜粋>

- ・ 地域のいろいろな関係者の方へ交代で参加をお願いすることで、新鮮な会になると思う。
- ・ 入居者と以前から知り合いだったという委員さんも多いので、まず、入居者との付き合いを再開して頂き、気持ちを代弁して頂く。また、地域の住民からの疑問や意見の代弁者ともなって頂き、信頼関係の橋渡しをして頂く。

- ・ 様々な職種が会議に参加することで、地域内での連携がさらに深まると思う。(医師も含め)
- ・ ホントのことを話すこと。相談していくこと。じっくり時間をかけて、委員の方と関係を築いていくこと。
- ・ 当グループホームを地域の高齢者の集まりの場として提供し、入居者の生活を豊かにすること。
- ・ 運営推進会議から発展して、グループホームのサポーター役を広く募って皆で支え合う施設、地域ぐるみで育てる施設を目指していけたらと思う。個人の努力で運営する方法は営利が前面に出てしまい地域の協力は得られにくい。ケアサービスは心のこもった気持ちで行うもの。
- ・ 介護教室等の開催スタッフの質の向上にもつながる。畑の達人やお菓子作りの達人等地域に居る人を見つけて一緒に畑をやったり、お菓子を作って認知症理解、GHの理解につながればと思う。子供たちと昔遊びや紙芝居などしてGHを身近な存在にする。ケアマネ、介護福祉士がいるので色々な相談事業、24h必ずスタッフが居るのでいざという時に使える。例えば老老介護で夜間困ったとき等。
- ・ 地域の方々と視野を広げアドバイスや他施設の良いところなど情報を頂いたりして資源の向上に結びつけていく。
- ・ 消防署の職員が認知症の周辺症状を理解する事で、搬送先の通告が的確になった。民生委員が理解することで仲間への周知がスムーズになった。
- ・ 隣接しているGHとの交流なども必要かと考えている。全体がまとまれば力が強くなると感じている。区などの協力・連携が大切。GH内にて”認知症サポート”講演を通し、利用者の様子を見ていただき、認知症の方の偏見を取り除く事もしていきたい。
- ・ 自治会長、消防署職員、駐在所警察官等固定委員以外にも参加してもらい社会資源を掘り起こす。

#### (4) 事業所や地域で取り組んでいきたいこと

設問：(Q33) 運営推進会議をきっかけとして、事業者や地域で取り組んでいきたいこと。

##### 主な意見 1: 認知症の理解を深める活動(啓発・教育活動)

キーワード：グループホームの理解、認知症サポーター講座、勉強会、出張講座、意見交換、介護予防講習会、サポーターの育成、等

<自由回答より抜粋>

- ・ 多くの活動や状況を報告し、まずは地域住民の方が認知症関連の事をより多く知っていただく機会を増やしたい。
- ・ 地域の方々が心配されている高齢化による影響について意見交換していきたいです。(見学、ボランティアの訪問、勉強会)
- ・ 自治会主催の認知症への理解を深めるための会合や、勉強会に出席させて頂いて、地域住民の方に認知症への理解を深めていきたい。
- ・ 認知症の方を自宅介護されている方の相談窓口になれば、地域でのGHのあり方を理解して頂けるのではないかな。
- ・ 地域の方に出席して頂けるよう運営推進会議というものを知ってもらうことができるように地域版のホーム便りへの掲載を検討していきたい。
- ・ 地域の中で当GHが認識され、必要に応じて地域に出て、認知症に対しての理解を深める取り組みをしていきたい。地域の中で認知症の家族を持ち、悩んでいる方、介護負担が増加している方などの相談に応じることができる場となれば良いと思う。
- ・ 年度が替わると市役所、民生委員、地域長、包括の担当者が代わってしまうが、多くの人にグループホームや認知症の方の事を知ってもらう良い機会だと思う。
- ・ 介護について、認知症について、いろいろ情報を提供したいと思うが、事業所の利用者獲得の宣伝活動と受け止められ、地域では独自で住民に対しての情報提供活動は難しい。
- ・ 地域の方々が「あそこはダメなやつらが行く所だ」や「変なやつらが行く所だ」ではなく、自身がもしそのようなになっても助けてくれる、また、安心できる場所であることをこの会議で言い続ける事を考えています。
- ・ GHは地域密着型サービスである事から、当施設での利用者との関わりをもっと増やしていく事を大切にする。今まで以上に当施設の説明、ホームページ等を活用して広報にも力を入れていく。地域の人に当施設をわかってもらう様に取り組んでいきたいと思っています。
- ・ キャラバンメイト、認知症ケア専門士による認知症介護セミナーへの取り組み。ホーム便りを広範囲(学校、公民館、協力病院、地域の掲示板、回覧板)での施設公開の取り組み。学校(小中学校)での介護勉強会及びボランティア活動の受入。徘徊シミュレーションの取り組み<地域、学校、警察、消防署の協力を頂く。>



**主な意見 2:緊急時の対応や事故を防ぐ為の対策・危機管理体制づくり(安心して暮らせる地域づくり)**

キーワード：災害時の協力体制、消防訓練、避難訓練、等

<自由回答より抜粋>

- ・ 地域と連携した火災、防災訓練の実施。
- ・ 防災時における近隣住民の協力が得られる様な関係を築く。
- ・ 非常時の地域を含んだ対策（日中、夜間共）。
- ・ 急な災害時の協力体制（一時避難所等）を確立していきたい。
- ・ 行方不明時の対応等。
- ・ 防犯パトロール。

**主な意見 3:地域住民、家族、行政などとの交流による風通しの良い関係性の確立及び地域の活性化(地域連携・ネットワーク作り)**

キーワード：地域交流、家族交流、関わり、開かれた事業所、子どもとの交流、ボランティア、老人会、家族との協働、等

<自由回答より抜粋>

- ・ 地域で行われている行事や老人会への直接的な参加。
- ・ 地域住民の方などのボランティア活動。(利用者との交流)
- ・ 医療機関の中のグループホームは空室が出来た時のネットワークは案外楽であるが、(株)(有)の単体の場合の空床は大変です。そんな時、行政、民生委員の方々などの応援が必要なので、そちらとの上手なつきあい方が大事と思います。
- ・ 子供との交流(ホームへ遊びにきてくれる)。地域の独居老人との交流。
- ・ 家族合同の食事(改まった会ではなく、日常的に)
- ・ 地域の行事への気兼ねのない参加。
- ・ 地域密着型の施設として、地域の中に溶け込み地域の中の一員として、なじみの関係の人との交流をもっと増やせるよう取り組んでいきたい。
- ・ 地域の敬老会参加の声も頂き、役員の皆様には感謝しています。また、介護に関わる事など施設を窓口とし、気軽に相談出来る関係をもち、自施設が地域の皆様にとっての家となれる事を望んでいます。
- ・ 行政側が出席に意欲的になっているので、制度としての問題点を発言していきたい。(運営推進会議がその場として適切かどうかは別として)例えば差し迫った問題として、利用者(今後利用者となりえる人達)の所得低下が見過ごせない状況となっている。そんな中で現在の行政でも担当部署だけでなく、いろいろな機関の方々が出席していただき、連携を強めていきたい。

主な意見 4:地域への情報提供及び高齢者を地域で支援していく為の地域貢献(社会資源の開発含む)

キーワード：家族会の支援、情報発信、集いの場、地域協力体制、ボランティア活動、相談窓口、気軽に立ち寄れる場、等

<自由回答より抜粋>

- ・ 施設から地域への情報発信。家族会の設立。
- ・ 地域の清掃活動への参加。
- ・ 特に独居高齢者を地域で支援していく拠点施設になりたいと思っている。会議の度にホームの機能を地域ケアに活用して欲しいと訴えている。
- ・ ボランティアの参画と紹介。
- ・ 事業所が地域にとって必要な社会資源になること。
- ・ 新しいコミュニティを形成していきたい。多世代間交流。(高齢者も子供も障害者も…)
- ・ 定期的に散歩しながらゴミ拾いを行っているが、もっと職員の専門性を地域の人々になにか手伝う事を考えていきたいと思う。
- ・ 地域の中で認知症の家族を持ち、悩んでいる方、介護負担が増加している方などの相談に応じることができる場となれば良いと思う。
- ・ 会議が主体となって(メンバーが中心となって)独自の活動が展開出来ないものかと…。即ち地域住民向けに…。認知症の啓蒙活動や独居老人をもてなす会とか…。何か定期的に取り組めることを考えたいですね。
- ・ 現在、地域代表の方お二人に来ていただいています。この地域に長寿会という高齢者の会があるそうですが、運営推進会議での園の活動報告等をきっかけにして、ホームが長寿会の活動の拠点となれたらと思っています。災害時の避難、徘徊者が出たときなど、近隣の方々が頼りなので、園の行事に地域の方々が参加して下さるよう取り組みたいと思っています。
- ・ 入居者を含めた地域の高齢者(特に在宅の元気老人を元気なままで、あるいはすべての高齢者の体力保持を支えるため)を地域全体で協働して支えてゆきたい。その動きの中から認知症の人達へのバックアップも生まれてくると思う。(只今介護予防ボランティアの会を設立して活動中)
- ・ 協力を乞うばかりではなく、ホームの専門性の分野を地域の方に提供していきたい。
- ・ 特定の方だけではなく、もっと色々な分野の方にご参加頂ければよいと思う。取り組みの内容について情報を広く発信していく。
- ・ 介護に関する事はもちろんですが、その他の事でもあそこに行けば相談にのってもらえる。心が休まると感じてもらえるような、又、気軽にお茶飲みに来て頂けるような環境作りを目指す。

## 主な意見 5: 事業所の取り組みや個別支援に対する振り返り及び検討(評価)

キーワード：事業所の地域貢献、ボランティア活動、話し合い、研修会、等

<自由回答より抜粋>

- ・ 与えられたり、得たりするだけでなく、事業所が地域にむけて何ができるのか具体的に考え、実践できたらと思う。
- ・ 私自身初めての事で中心となって推進会議に取り組んでいきたいと思い、地域の方たちと話し合い進めて行きたい。その中で出来る事から取り組んでいきたいと考えている
- ・ 地域がかかえる福祉ニーズの検討。
- ・ スタッフからの働きかけばかりでなく、入居者の方の意見、要望を直接地域の方に伝えられるように努めたい。
- ・ 地域の行事参加や施設側よりもボランティア活動に参加し、地域貢献に努めるきっかけとなるため、会の運営を大切にし、メンバーの検討や内容を見直していきたい。
- ・ 町内住民が当事業所に望むことの把握や自分たちも地域の資源として地域に貢献できることは何なのかを検討し、実行していきたい。

### (5) 事業所や地域で取り組みたいことの実現に必要な働きかけや工夫

設問：(Q34) 運営推進会議をきっかけにして、事業所や地域で取り組みたいことを実現する為に必要な働きかけや工夫

## 主な意見 1: イベントの開催

キーワード：世代交流、情報伝達、気軽な機会、勉強会、等

<自由回答より抜粋>

- ・ 町内や小学校、高等学校、あるいは幼稚園等と楽しく出来る合同イベントを開催していけばと思います。地域のイベントにもっと積極的に参加していきたいと思います。また、ホーム内でのイベントにも参加して頂けるような活動をしていきたいと思っています。
- ・ 地域の福祉委員、高齢者ミニデイサービス等に勉強会等を開催する。
- ・ なるべく地域のボランティア、ボーイスカウト、自治会などの行事に積極的な参加、ホームでの行事のご案内を送る。自治会、他の地域への集まりなどの時に、会議室をかす。散歩、買い物など行くときも、積極的にこちらからあいさつするよう心がけている。
- ・ 行事のご案内状を回覧板に入れさせてもらい、もっと多くの方と交流を持てるよう働きかけたいと思っている。
- ・ 運営推進会議や家族会を増やす。議題を決めないで話し合う場を作る。参加メンバーを

議題に応じて増やしたい。

- ・ 日々の関係作りに務める（声を掛けたり、相談したり）。ホームで行う催しや行事等利用者と一緒に案内やお誘いに行くようにする。研修や講座など地域包括支援センターに提案したり、企画、活動に積極的に参加する。地域の防災訓練への参加、防災のための話し合い等積極的な働きかけ。
- ・ 事務的な会議だけではなく、入居者に緊張感を持たせないような会議を開いてみたい。食事会やイベント等話しやすい場を作りたい。
- ・ 地域に当施設を知っていただくために、沢山の機関を通して情報公開していく。
- ・ 職員が認知症についての専門的な知識を深めていき、地域の人々と勉強会を開く。
- ・ 当ホームで年1回主催の夏まつりが今、地域の夏まつりになりつつある。夏まつりを通しての呼び掛け、運営推進会議を通し、近隣住民との良い関係作りや簡単な勉強会への呼び掛けを通し、グループホームのあり方、方針など訴えて行く事が必要。

### 主な意見 2: 認知症サポーター

キーワード： サポーター養成講座、等

<自由回答より抜粋>

- ・ 認知症を理解してもらう→認知症サポーター講座開催。
- ・ サポーター養成研修や会議の中での認知症に関する研修、また、認知症の人たちと地域行事への参加をしていく。
- ・ 認知症サポーターの養成の為の研修を受けたので、今後、サポーター養成講座を地元の方々と計画したいと思っている。

### 主な意見 3: 地域の相談窓口

キーワード： 相談窓口、等

<自由回答より抜粋>

- ・ 地域との関わり。認知症講座に関する開催、援助。認知症に関する相談を継続していく。相談窓口としての役割。
- ・ 入所に関係なく、地域の認知症の方や家族の方に対して相談や助言をしていく。事業所での行事や訓練等、回覧を確実にし、参加しやすい環境を作る。
- ・ こちら側から積極的な発信。地域行事（掃除やイベント）に参加。高齢者相談窓口となるよう、受け入れる体制を作っていく。
- ・ 地域の方の相談窓口になるなど、この施設を入りやすい所にして行く必要がある。事前に利用者の意見を聞いたりする。

#### 主な意見 4: 地域との交流、啓発

キーワード：関係作り、参加、交流、アプローチ、等

<自由回答より抜粋>

- ・ 気軽に集まれる場を設け、よびかけし協力者を求めていく。1人2人からでも気長くなじみの関係作りに取り組んでいく。行事等に参加するのみに終わらず、継続した自然な関わりを求めていく。昨今は地域としての関わりも少なくなってきたので、昔のような助け合う地域作りを取り戻していけたらいいと思っている。
- ・ 日頃からのあいさつや、自治会行事への参加、地域清掃への参加、地元の商店街を活用するなど、できることから一歩ずつ、地元のために協力していき、ホームとしての信頼を得ることが大切と思われる。
- ・ 自治会への働きかけは継続して行い、散歩の際などにも積極的にあいさつや声かけを行う。現在付き合いのある人からも働きかけてもらい、交流の和を見つけていく。
- ・ 施設への自由な出入りが出来る事。こちらからもより一層に行事へ参加をする。催し物を手助けしてもらおう。介護の相談を気軽に受ける。
- ・ 地域の問題とサポートシステムを明確にしていく。ネットワーク委員会、地域包括支援センターの役割等で地域住民に知らしめていく。
- ・ 職員だけでは支えきれないところを地域の方たちの協力が得られればと思う。特に外出支援。それには地域の方達にもっと広く認知症やGHについての理解をしてもらえるよう活動していかなければいけないと思う。ゆとりを下さい。
- ・ 各小中高の職員にも認知症の理解を深めていただき、ご家族がもしも認知症になったら... どう対応すべきかを話させていただける機会が持てるよう学校関係者に働きかけたい。

#### 主な意見 5: 保育園・学校等との交流

キーワード：子供たちとの交流、等

<自由回答より抜粋>

- ・ 保育園や学校等へボランティアの働きかけを行い、地域の方にホームへ足を運んでいただく。ホームでイベントを用意し、芋堀りなど楽しんでいただく。ホームで利用者の作った作品（雑巾、テーブルクロス、折り紙）等をもって他施設への訪問等も交流の機会にできる。
- ・ 職員も利用者ももっと地域の中へ出ていく。買い物や散歩。あいさつ（道で会った方々に）が気軽にできる。保育所や小学校等の子供たちとの交流。（運動会や学習発表会等の見学）
- ・ 自治会だけではなく、子供会や学校にもグループホームを知っていただき、理解を求めていく。実習生の受け入れ等を行っている大学や知人の講師等に働きかける。

- ・ 幼稚園、保育園の経営者の高齢者施設への理解を進める。

#### 主な意見 6: 内部の体制整備

キーワード： スキルアップ、情報発信、等

<自由回答より抜粋>

- ・ もっと参加しやすい時間、日付を考え、よりよい会議が行えるようにしたい。
- ・ 会議を継続すること。こちらの想いをいただきながら、あせらずまじめに取り組む施設のイメージを大切にす。 (清潔、明るい、楽しい、努力している、利用者の態度や表情、職員がイキイキ)。職員の教育。
- ・ まずは勤務している職員のスキルアップのために勉強会、研修の充実、ホーム内で利用者の家族の認知症の理解を深める⇒地域の方へ発信
- ・ まずは職員の意識を変えること。地域に密着することの大切さは理解できているが、利用者の ADL 低下に伴って、地域に出向くことを消極的になったり、業務をまわすことで精一杯になっている。
- ・ 自分達は利用者と共に地域の住民として何をしたいのか、そしてそれをするにはどんな工夫が必要なのかを考え、業務の見直しも必要となってくる。それから地域の方には会議を通して具体的に話をし、理解していただける働きかけが必要と思っている。
- ・ 機関誌等を定期的に地域へ配布する、また、同町の GH 同士の連携を取っていききたい。職員の質を向上させるために、外部、内部研修の充実を図り、知識、技術を身に付け対応できるようにしていきたい。

#### 主な意見 7: 行政との連携

キーワード： 行政の積極性、協働、ネットワークの整備、等

<自由回答より抜粋>

- ・ 市の積極性 (現場において来る、市役所の高い所にいないで)。地包センターは、事業所に委託され、事業所トップの意向が反映し、行政機関の一部として積極性、独立性がたもてない。1ユニット単独のグループホームでは、人材も少なく、地域に入って活動する事は、時間的に難しい。
- ・ 行政が住民に対して、もっと多く関わるべきだと思います。事業所のみ工夫、働きかけを期待しても、職員の人数、質からして、今現在では難しいです。

- ・ 各地域における認知症に対する理解を深める為、キャラバンメイト等行政も含めた国、都道府県単位での活動の更なる実施。国民一人一人の理解があってこそ、本当の意味での地域交流が可能となるものとする。
- ・ 公の機関や地区民生委員等が中心となり地域の要援護者及び家族に上記の機関と懇談できる状況を作り上げ、それを基盤として定期的、必要度によって回を重ね住民の意識の向上、必要なサービスの提供を受ける、相談機関をそれぞれの立場から情報提供し共生の町興しをする必要があると思う。
- ・ 何と言っても行政の方達との共働が必要。地域包括支援センター、社会福祉協議会、保健センターの皆さんと連絡しあい、町のボランティアの皆さんとまず認知症の知識を共有してもらうための活動から始める。入居者さんとその家族にもそういう動きの中で、家族の介護を見つめ直してもらいたいと思う。
- ・ なかなか一般の方にご参加いただくには至らない。もっと働きかけを広げていく必要があると思う。一般の方や GH、認知症高齢者についての理解がない方でも分かり易いパンフレットの作成。官公庁を中心にネットワークの整備（行政からの働きかけ）
- ・ 認知症に対して行政にも腰をあげてもらうために GH に一泊でも体験で泊ってもらえばよいのでは。
- ・ 行政も地域も本気になって GH の入居者のことを考えてほしい。

#### 主な意見 8: 他事業所等との連携

キーワード： 連絡会、関係づくり、連携、等

##### <自由回答より抜粋>

- ・ 包括支援センターや他の在宅事業所との関係づくり。地域住民に対して、理解を得られるように工夫する。多目的室の地域への開放。地域行事への参加。
- ・ グループホームは常に定員いっぱいの利用があるが、新たに受け入れる事が困難。小規模多機能型事業所の役割と連携をもっと深めていきたい。
- ・ 他事業所も交えて、地区全体の連絡会を作る。
- ・ 研修会や勉強会など参加。他事業所などに見学に行く。
- ・ 外部評価して頂いた団体に呼びかけ協力して頂き、良いアドバイスが聞ければ参考にして行きたいと思う。運営推進会議で家族会の立ち上げを呼びかけ、実行する事を報告、他グループホームにもアドバイスして頂けるよう働きかけを行う。
- ・ 認知症ケアの専門性を高め、有効性を実証することで、ご本人・ご家族・地域の方々の安心と信頼を得、よりオープンに相談できる環境をつくっていく。啓発活動の充実。現在、法人の方針で年に 10 回程度しか認知症サポーター養成講座に協力できていません。キャラバンメイトの仲間とは寸劇やロールプレイの導入などで、工夫を重ねていますが、より系統だてた活動と浸透のためには、地域包括支援センターとの関係強化が急務だと思われる。

## 主な意見 9: 運営推進会議の活用

キーワード： 参加希望、即時検討、近隣住民の参加、信頼関係、提案、等

<自由回答より抜粋>

- ・ まずは、定期的な開催と、地域の方の参加。参加してみたいくなるような内容作りが必要。
- ・ 委員の方々からのご意見、助言に対して即検討し、実行する事が必要であり、また、その事について評価する事も重要であると思う。
- ・ 固定委員以外に、地区長や警察署職員、近隣住民等に声をかけて会議に参加していただく。
- ・ お互いの信頼関係を更に構築する事と、思いやりを持ち、入居者の為に何が出来るかを常に考えた運営推進会議の開催。地域に出ること、脚で稼ぐ事を念頭に置き、地域密着型 GH を考えた運営と職員への啓蒙啓発。
- ・ 地域住民代表の委員や行政の委員等からの情報を得、関係者との連携を密にし、委員を介しての働きかけを行っていきたいと思っている。
- ・ 委員のメンバーを増やす。職員も地域の活動に参加する。
- ・ 地域の活動に参加するだけではなく、ホームとしてどのような事がしたいのかを会議の場で提案していく事が大切だと思う。また、一緒に考えていけるようにしていく。
- ・ 会議を媒体とし、より地域住民にグループホームを知ってもらえるような工夫。

## 主な意見 10: 地域のニーズ把握

キーワード： 必要把握、実態調査、バックアップ体制、等

<自由回答より抜粋>

- ・ 地域内での何が困っていて、何を必要としているのか等の把握と、事業所からの様々なかたちでの発信が必要かと思う。(なかなか難しいところですが。)
- ・ 地域というものを知る必要があり、次に地域の誰、どことつながりをもてば良いのか？を知る事。他のグループホームとのつながりをもつことも重要。
- ・ 地域の実態調査(どれだけの必要性があるのか)が必要。当事業所の利用者は地域の方に時々お世話になったが、商店街の方からはあまり必要性を聞かないのだが... 事例があれば運営推進会議に提案、検討する。
- ・ 地域に暮らす方々の支援マップ等の作成が必要と思いますが、個人情報の保護等の事があり、情報の収集がうまくいかない為、身近なところに目向け一人二人というように地道に進める。地域の健康教室等の情報を得て参加してみる。
- ・ プロジェクトチーム結成...賛同者を集める。まずは今まで参加して下さっている方の中から(近隣の方々)と思いますが、保守的で温度差が感じられます。もっと広い範囲に目を向け、積極的なアピールが必要だと思う。社協、児童センター、教育委員会、消防課、まち作り協議会など。



## 第3章 訪問調査結果

## 第3章 訪問調査結果

### 1. ヒアリング調査結果

#### (1) グループホームもえれのお家

所在地：北海道札幌市

事業所概要：医療法人を母体とする中沼事業所は、認知症高齢者の「グループホーム北大館」のIユニット9名と「グループホームもえれのお家大和館・バルブロ館」2ユニット18名と「デイサービス初恋」「デイサービス出逢い」の併設グループホームである。

#### ○運営会議の取り組み状況

運営推進会議は、開催の1か月前に構成員に日程調整して決める。会議は、併設しているデイサービスの終了後の16時半から1時間程度行う。

#### ○構成員

利用者家族の代表、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、法人で知見を有する者などである。家族には家族会・訪問時に参加の声かけをしている。

#### ○会議の内容

入居者状況(利用状況・要介護度など)、活動報告、行事予定、生活の様子などを定期的に報告し、その他、外部評価・情報公表結果、職員の研修状況や実習生の受け入れ状況や季節の話題、インフルエンザ・除雪対策などについて話し合っている。

#### ○会議の企画・運営

内容の報告については、参加者からの助言・要望を聞き意見交換をする。介護保険制度や町内会の運営方法、認知症についてのテーマでお茶を飲みながら熱い意見交換になることもある。町内会長は、運営会議の内容を回覧板や総会で報告している。

## ○事業所の特徴

ホームは、札幌市の南西部に位置しノグチ・イサムが設計したモエレ公園が近くにあり閑静な住宅地にある。

中沼事業所は、平成9年法人の自主事業として、母体施設老人保健施設の近くに民家改修型グループホームもえれのお家本館（定員5名・現在は廃止）で、認知症の人の生活支援の在り方を実践する研修の場として開設した。ここでの実践をもとに、翌年、元北海道大学環境行動学の先生が基本設計した新築のグループホーム北大館（定員9名）、平成12年大和館・バルプロ館（定員18名）と認知症デイサービスを開設、「通って」「住む」という機能をつけ、平成19年一般型デイサービスを開設し、介護予防にも取り組んでいる。

運営推進会議は、北大館、大和館・バルプロ館合同で、デイサービスの場所で開催、16時半から行う。会議を重ねて行くうちに運営推進会議の重要性を感じており、意見も活発になりつつある。

## ○まとめ

グループホームとデイサービスを併設して、「通い」「住む」機能を持ち環境変化を最小限にしようと運営も地域住民・家族の協力のもと、こだわりを持ちながら実践している。

運営推進会議においても、日々の生活の様子や実践をきめ細かく報告し意見交換とアドバイス等をいただいている。会議の日程調整に苦慮しているが、多くの人に参加して開催することの調整も大事なので、負担感を持つのではなく、また、2月に1回開催せねばと義務感にとらわれず自然体で開催できるよう努力しているところである。

## (2) グループホーム泉湧く憩いの家

所在地：東京都文京区

事業所概要：社会福祉法人泉湧く家は、俳人としても活躍された故伊藤富久さんの「住み慣れた地域の皆さんに感謝の気持ちとしてお役に立ちたい」という意思と寄付で、2005（平成 17）年の冬に設立された。

同法人は、今回の調査先であるグループホーム「泉湧く憩いの家」の他、都内に通所介護「デイフォーラム染井吉野」や小規模多機能型居宅介護「堀之内の家」など 3 か所の施設を運営している。また 2010（平成 22）年 3 月には、池袋に高齢者複合施設（グループホーム・小規模多機能型居宅介護）を開設予定である。

### ○地域の特徴

文京区の人口は約 20 万人弱であり、東京都の特別区の一つで 23 区西部に属し、明治より著名な文人や学者が多く集まるとともに、閑静な住宅地や歴史ある庭園なども数多く残されている。また、教育機関や医療機関なども多数あり「文の京」の街と呼ばれている。全体的には住宅地が多い。

### ○グループホームの基本情報

「泉湧く憩いの家」は、2006（平成 18）年 8 月に開設された。周辺には戦前からの家が多く、古くからの町並みの中にある一軒家であり、家庭的な環境の下、住み慣れた地域で共同生活を送り、明るい日常を送れる家を目指している施設である。グループホームの庭には、グループホームの名前である「泉湧く」の由来である防災井戸と池がある。

開設当初は看護や介護の経験者を中心にスタートし、3 年後の 2009（平成 21）年には共用型指定認知症対応型通所介護が開設され、現在は小規模多機能へ移行している。1 ユニット、入居定員 9 名で、現在 9 名が入居中である。

### ○運営推進会議について

<運営推進会議の構成員と開催頻度>

固定：法人代表者、管理者、計画作成担当者、利用者の家族、近隣住民、民生委